公益財団法人仙台市市民文化事業団
中期経営計画（2018-2020年度）
及び令和元年度（2019年度）事業報告の概要

1 中期経営計画案の全体像

本計画案は、2017年1月に策定した「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」にある5つの基本方針に基づき、2018年度から3カ年にわたって取り組む事業のねらいや方向性ととも、その実現を支える経営強化目標、収支計画等によって構成されています。

加えて2年目（令和元年度/2019年度）の事業報告について、概要を示しました。

定款 第3条 目的

この法人は、文化芸術の振興、郷土の歴史の継承及び生涯学習の支援に関する事業を行い、もって魅力ある市民の文化創造と豊かな市民生活の実現に寄与することを目的とする。

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」

5つの基本方針

<方針その1>

資料の収集と活用

ミュージアム施設の管理・運営／常設展・企画展等の開催

<方針その2>

市民の文化活動への支援

活動者への支援・助成・協力／鑑賞機会の提供

<方針その3>

さまざまな人材の育成

講座・ワークショップ・市民協働型事業の実施／
ボランティア組織の運営

<方針その4>

[楽都][劇都]の成長促進

音楽・舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進／
劇場・音楽堂の活性化

<方針その5>

地域文化資源の活用

文化による地域共生社会の振興／新たな地域文化の創造

経営の強化

●人材の確保・育成

●経営基盤の強化

2 「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」基本方針と事業の概要

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

<方針その1> 資料の収集と活用 *その2にも該当

歴史や伝統、多様な文化芸術に関する資料収集・調査研究とその成果の活用により、市民の暮らしに息づく文化の保存・伝承および総合的な文化の振興を図り、まちの魅力向上に活かします。

- ① 資料収集や調査研究を通じて、文化を育み活用する基盤の整備に寄与し、市民文化の振興に努めます
- ② 調査研究等で得られた成果を活用し、さまざまな手法でこれを市民に提供していくことで、市民が学びを楽しむきっかけをつくるとともに、「ミュージアム都市」として、継続的な学びを支援します
- ③ 長い年月の中で、災害や技術の進歩、ライフスタイルの転換などにより、変化し、喪失してしまう地域の記録や記憶を保存し、大切な文化資源としての活用を図ります

2018-2020年の方向性

2019年度の「仙台市歴史民俗資料館開館40周年」「仙台文学館開館20周年」を節目と捉え、両施設の周年事業を次の方針で計画・実施・検証するなど、今後の各ミュージアム運営に資する新しい業務に着手していきます。

- ・蓄積した資料や成果を国内外に向けて積極的に情報発信します
- ・施設の存在をさらに広く知ってもらうために、多彩な事業を実施し、新規の来場者を開拓します
- ・現在の施設運営課題を絞り込み、その解決のための新たな方策や事業を試行しながら、その効果を検証します

令和元（2019）年度 事業の概要 [経費／単位：千円]

「仙台市歴史民俗資料館開館40周年」「仙台文学館開館20周年」と節目の年を迎えた令和元年度は、記念事業としてそれぞれの施設の持つ魅力を強く発信する事業を実施しました。各施設においてもこれまでの資料収集・調査研究を基に様々な展示事業を企画し、好評を得ました。

(1) ミュージアム施設の管理運営・資料収集・調査研究

- ア 仙台市歴史民俗資料館 管理運営[64, 332]（市指定管理料／No. 77, 84, 85）
- イ 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営[90, 798]（市指定管理料／No. 87, 94-98）
- ウ 仙台市縄文の森広場 管理運営[50, 843]（市指定管理料／No. 100, 103, 107, 108, 110-115）
- エ 仙台文学館 管理運営[187, 285]（市指定管理料／No. 116, 122）

(2) 常設展・企画展等の開催

- ア 仙台市歴史民俗資料館 企画展等[3, 127]（市指定管理料／No. 78-81）
- イ 仙台市富沢遺跡保存館 企画展等[14, 975]（市指定管理料／No. 88-92）
- ウ 仙台市縄文の森広場 企画展等[12, 187]（市指定管理料／No. 101, 102）
- エ 仙台文学館 企画展等[16, 742]（市指定管理料／No. 117-121, 123）

(3) ミュージアム等周年記念事業

- ア 仙台市歴史民俗資料館 40周年記念事業[1, 496]（自主財源／No. 1）
- イ 仙台文学館 開館20周年記念事業[3, 125]（自主財源／No. 2, 3）

主な展示事業

No. 80「仙台市歴史民俗資料館企画展『戦争と庶民の暮らし5』」（7月27日～11月10日）
仙台地方を中心に戦争と庶民のかかわりについて、軍都仙台の成立、西南戦争、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、満洲事変、日中戦争、第二次世界大戦、戦時下の暮らし、米軍占領期などにおける資料を通して、戦前、戦中、戦後の移り変わりを明らかにした。（観覧者数：11, 878人）

No. 90「地底の森ミュージアム特別企画展『センダイ 遺跡の記憶』」（7月19日～9月23日）
仙台市内の遺跡でみつかった旧石器時代から古代にかけての市指定文化財資料を中心に展示し、東北地方や関東地方の遺跡出土品との類似性や産地などから当時の交流と仙台の地が果たした機能や役割を紹介した。（観覧者数：7, 405人）

No. 102「仙台市縄文の森広場コーナー展示「東北の縄文遺跡」（通年）
宮城県内を含む東北地方の縄文時代の遺跡から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介した。（総観覧者数：3, 528人）

No. 119「20周年企画「夏休み子ども文学館えほんのひろば」（7月13日～8月25日）
個性的な絵柄と、ダイナミックな作風で多くのファンを持つ絵本作家・スズキコージの原画展を、平成29年にアーサー・ビナードと共作の形で刊行され、第23回日本絵本賞を受賞した『ドームがたり』を中心に構成し開催した。また、作家によるトークイベントやワークショップなども開催し、絵本の楽しさとスズキコージの世界の面白さを体験してもらうような企画とした。（観覧者数：3, 302人）

仙台市歴史民俗資料館 開館40周年記念事業

No. 1「ありがとう40年・仙台の伝統芸能」（11月3日）
旧仙台藩領及び東北地方において伝承されてきた無形の民俗芸能「お神楽」「田植踊」「鹿踊」「剣舞」などの上演や、伝統工芸の職人技の実演を行い、市民の伝統文化への関心を高める行事となった。また、浅草雑芸団による祝福芸の披露やお囃子の中で餅まきを行い、大勢の参加者と開館40周年を祝うことができた。（参加者数：3, 296人）

仙台文学館 開館20周年記念事業

No. 3「連続トークイベント『井上作品と私』」（通年）
開館20周年記念特別展「井上ひさしの劇列車Ⅰ期・Ⅱ期」の開催に合わせ、井上ひさしにゆかりのある演劇人や映画関係者、詩人、若手演出家などを招いてトークイベントを開催した。（参加者数：のべ406人）

<方針その2> 市民の文化活動への支援

市民が行う自主的な学びや活動の場を提供し、さまざまな文化活動を支援することで、年代やライフステージに関わらず誰もが心豊かな市民生活を送り、地域が活性化することをめざします。

- ① 市民や市民団体が行う自主的な学びや活動を支援するとともに、市民が多様な文化に触れる機会を提供し、心豊かな暮らしと地域の持続的な発展に寄与することをめざします
- ② 多様な文化に関わる情報に誰もがアクセスできるよう、さまざまな手法による発信に努めます
- ③ 震災からの復興や地域づくりにおいて文化が果たしてきた役割を検証し、次代につないでいきます
- ④ 多様な年代・ライフステージに応じた学びと活動の機会を確保し、文化への理解と支援の拡大をめざします
- ⑤ 施設の利用者がいつも安全に安心して利用できる管理運営を行うとともに、さらなる魅力の向上を図ります

2018-2020年の方向性

当財団が果たしてきた市民活動支援の役割を維持継続していくとともに、既存の制度や仕組みの段階的な充実を図ります。加えて鑑賞者向け事業やサービスを、時代の変化を意識して再編成します。

- ・ 2020年度のせんだいメディアテークの開館20周年を節目と捉え、次の10年の方向性の検討をすすめ、周年事業を計画・実施します
- ・ 鑑賞者に向けた各種広報及び「市民文化事業団友の会」、制度改正後10年余りが経過する「支援・助成・協力事業」の仕組み等を改めて検証し、それぞれ有効度の向上に取り組みます
- ・ ホール系施設の劇場としての機能充実を目指し、より良い運営のための外部評価の充実や、文化庁等外部財源のさらなる獲得に努めながら、事業の充実を図ります

令和元（2019）年度 事業の概要 [経費／単位：千円]

貸出施設のある指定管理施設の管理運営や「支援・助成・協力事業」などの継続を通じて、多様な文化活動への支援を行いました。令和2年度に開館20周年を迎えるせんだいメディアテークではプレイベントを実施し、20周年に向けての気運を醸成しました。

また、市民ニーズに応える鑑賞公演を幅広く実施するほか、ミュージカルなどの市民参加プログラムにも継続して取り組みました。

(1) 活動者への支援・助成・協力

- ア 支援・助成・協力事業[20,001]（市補助金・自主財源／No.5）*その3・その5にも該当
- イ せんだい演劇工房10-BOX・能-BOX管理運営[25,474]（市補助金・使用料等／No.58）*その4にも該当
- ウ 仙台市青年文化センター管理運営[352,937]（市指定管理料／No.124）
- エ 仙台市泉文化創造センター管理運営[132,950]（市指定管理料／No.125）
- オ せんだいメディアテーク管理運営・生涯学習支援事業[591,472]（市指定管理料／No.126,127）
*その3・その5にも該当

(2) 鑑賞機会の提供

- ア せんだいメディアテーク開館20周年記念事業準備[916]（自主財源／No.4）
- イ 仙台市泉文化創造センター活性化事業<宝塚・寄席・イズミノオト等>[30,416]（自主財源／No.7,11,15）
*その4にも該当
- ウ 舞台芸術振興課鑑賞事業[70,623]（市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料／No.10,13）
*その3・その4にも該当
- エ 共催事業／文楽・青葉能等[1,066]（自主財源／No.12）*その4にも該当
- オ 仙台市青年文化センター活性化事業<子どもの夢ひろば”ボレロ”等>[2,019]
（自主財源・参加料等／No.14）*その4にも該当
- カ 仙台市歴史民俗資料館活性化事業<れきみん秋祭り等>[2,600]（自主財源・助成金等／No.16,17,28）
- キ 仙台市富沢遺跡保存館活性化事業<冬キラ・狩人登場等>[2,753]（自主財源・参加料等／No.18-21,28）
- ク 仙台市縄文の森広場活性化事業<縄文まつり復元プロジェクト等>[2,793]（自主財源・助成金／No.22,23,28）
- ケ 仙台文学館活性化事業<展示室劇場等>[495]（自主財源・参加料等／No.24,25,28）
- コ せんだいメディアテーク活性化事業<ホスピタリティ向上事業等>[275]（自主財源／No.26-28）
- サ 文化情報広報事業[7,098]（市補助金・自主財源／No.47）
- シ 「市民文化事業団友の会」事業[3,432]（自主財源／No.48）
- ス 仙台文学館普及啓発顕彰事業[1,921]（市補助金／No.63-65）
- セ せんだいメディアテーク経常事業[55,331]（市補助金・助成金・入場料等／No.73-76）*その5にも該当

主な鑑賞事業

No.7「宝塚歌劇星組仙台公演」（5月18日・19日）

仙台市民はもとより広域からの来場者で賑わう宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演を2日間4ステージで開催した。（入場者数：5,794人）

No.13③「劇都仙台ミュージカルプロデュース公演『おかえり、ケヤキ食堂』」

（12月7日・8日）

仙台を中心に活躍する指導者スタッフによる市民参加ミュージカルの制作・上演事業。一年以上のレッスンを経て舞台上に立った出演者一人一人が熱演し、音楽・ダンス・演技・舞台全ての面において高い成果を得た。（入場者数：1,290人）

No.14「青年文化センター活性化事業」（通年）

地域資源等を活用しながら、文化創造・交流拠点としての施設機能の充実と利用促進を図り、より市民に親しまれる施設に向けた事業を行った。（参加者数：のべ17,570人）

No.74「展覧会等総合事業『青野文昭 ものの、ねむり、越路山、こえ』」

（11月2日～1月12日）

廃棄された家具などを「修復」することで新たな形態を生み出す仙台の美術家・青野文昭の個展として、震災から現在までの表現を集めた集大成となる展覧会を行った。（入場者数：6,590人）

せんだいメディアテーク開館20周年記念事業準備

No.4「伊東豊雄講演会『メディアテークは、何を指していたか』」（1月26日）

令和3年1月26日に開館20周年を迎えるプレイベントとして、メディアテーク設計者である建築家の伊東豊雄をゲストに迎え、講演会と鷺田清一館長との対談を開催した。（入場者数：813人）

<方針その3> さまざまな人材の育成

多様な文化活動に関わる人材のすそ野を広げ、子どもたちをはじめとする次世代や新たな担い手の育成に努め、文化に関わる市民力の向上をめざします。

- ① 子どもたちが優れた文化や地域の歴史に触れる機会を増やし、次代の文化の担い手としての成長を応援します
- ② 各種ボランティアやサポーターの活躍機会の拡大に努め、互いに交流・連携しながらスキルアップをめざす取り組みを応援します
- ③ 多様な文化の担い手となる人材を育成し、新たな文化の創造や地域文化の発展・継承をめざします
- ④ 地域に受け継がれてきた伝統や民俗芸能の継承を支援し、鑑賞の機会を増やして理解を広げ、地域への誇りや愛着を深めていきます

2018-2020年の方向性

市民の多様な興味関心に応じて、芸術文化に触れる機会を広く提供する講座・イベントから、表現活動のスキルアップを目的としたワークショップまで、豊かな文化活動の担い手育成のために多層的なプログラムを実施します。

- ・ 子どもから大人まで、文化を体験できる多様な事業を行います。
- ・ 地元のアーティスト、学芸員、指導者など向けに、受講者とのコミュニケーション方法や派遣先の地域や学校をつなぐコーディネート手法など、ワークショップを支える人材の育成を図ります。
- ・ 文化施設や大規模な文化事業と一緒に運営するボランティアの方々とは、ノウハウの情報共有を行っていきます。

令和元（2019）年度 事業の概要 [経費／単位：千円]

出演者公募による「劇都仙台ミュージカル」や、親子から中学生まで幅広い世代を対象にした「ダンスプロジェクト」など、市民に向けて興味関心のきっかけとなるような講座やワークショップを数多く実施しました。また、仙台国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバルを支えるボランティア事業をはじめ、当事者として文化事業を担っていただく機会の拡大にも努めました。

(1) 講座・ワークショップの実施

- ア 舞台芸術振興課人材育成事業[70, 382]（市負担金・文化庁助成金・自主財源・受講料等／No. 13）
*その2・その4にも該当
- イ せんだい演劇工房10-BOX 舞台芸術人材育成事業[4, 342]（市補助金・自主財源／No. 30, 32, 33, 37）
*その4にも該当
- ウ 能-BOX 古典芸能人材育成事業[749]（市補助金・自主財源／No. 34） *その4にも該当
- エ 文化庁芸術家派遣事業（実行委員会参画／文化庁委託料／No. 42）
- オ 東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト[1, 116]（自主財源／No. 44） *その4にも該当
- カ 仙台文学館 学芸員出前講座・仙台文学館ゼミナール等各種文学講座[2, 072]
（市補助金・自主財源・受講料／No. 45, 66, 68）
- キ 仙台市歴史民俗資料館 子ども講座・たんけん資料館等各種講座、ワークショップ[38]（市指定管理料／No. 82）
- ク 仙台市富沢遺跡保存館 考古学講座・たのしい地底の森教室等各種講座・市民文化財研究員育成[1, 402]
（市指定管理料／No. 93）
- ケ 仙台市縄文の森広場 発掘調査体験教室・夏休み子ども考古学教室等各種講座[1, 486]
（市指定管理料／No. 104, 105）

(2) ボランティア組織の運営

- ア 仙台国際音楽コンクール・仙台クラシックフェスティバル／ボランティア事業[3, 095]
（市負担金等／No. 54） *その4にも該当
- イ 仙台文学館友の会支援事業（市補助金／No. 71）
- ウ 仙台市歴史民俗資料館サポーター養成事業[38]（市指定管理料／No. 82）
- エ 仙台市富沢遺跡保存館ボランティア事業[1, 402]（市指定管理料／No. 93）
- オ 仙台市縄文の森広場ボランティア事業[210]（市指定管理料／No. 106）

主な講座・ワークショップ

No. 13①「せんだいダンスプロジェクト」（6月～2月）

豊かで柔軟な発想を育み、想像力豊かにコミュニケーション能力を高めていく三つのプログラムを実施、幅広い年齢層とのコミュニケーションを豊かにする場を創出した。（参加者：82人）

No. 34「こどものための能講座」「能のおけいこ体験講座」「外国人向け能講座」（通年）

能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽への親しみと理解を深めるための講座を行った。（参加者数：92人）

No. 66「仙台文学館ゼミナール」（通年）

近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみかくコースなどの部門を設け、各講座をそれぞれ3～5回連続で開催した。（受講者数：1,976人）

主なボランティア事業

No. 54「仙台国際音楽コンクール ボランティア」

5月から6月にかけて開催された第7回コンクールにおいて、会場運営サポートや広報活動サポート等を担うボランティア活動を行った。（登録者数：254名）

No. 93「地底の森ミュージアムボランティア」

展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行った。（登録者数：68名）

No. 106「仙台市縄文の森広場ボランティア」

各種体験活動の補助や展示解説を担うボランティアの募集と、より分かりやすい説明などのための研修事業を行った。（登録者数：64名）

<方針その4> **[楽都][劇都]の成長促進** *その2・その3にも該当

「楽都」や「劇都」として、市民が参加し、育んできた文化をさらに成長させ、仙台の魅力として国内外に発信していきます。

- ① まちに音楽があふれ、誰もが気軽に楽しむことができる機会を拡充し、音楽を「する」「聴く」「支える」文化を育て、仙台の文化としての発信に努めます
- ② 子どもたちをはじめとする若い才能を育み、世界に羽ばたくチャンスをつくり、「楽都」の基盤を支えます
- ③ 舞台のづくり手と支え手の育成を支援するとともに、活躍の場を広げ「劇都」にふさわしい舞台芸術の振興に努めます
- ④ 多様な市民が集い、感動を共有する場である劇場等を地域における文化拠点として運営し、文化の継承・創造・発信の場として活用していきます

2018-2020年の方向性

- ・ 3年ごとに開催する「仙台国際音楽コンクール」は、2018年度に本格的な準備を行い、2019年度に第7回開催（5月～6月）、2020年度の第8回開催の概要広報まで、一連の業務を想定し、制作を進めるとともに、継続的に地域の音楽文化振興に寄与する関連事業を実施します。
- ・ 12回の継続を経て市民に深く浸透した「仙台クラシックフェスティバル」を、新規性も加味しながら引き続き開催し、音楽ファンのさらなる拡大によって「楽都仙台」の充実を図ります
- ・ “劇場法”の制定で重要度が増す「舞台芸術振興」のための諸事業を、せんだい演劇工房10-BOXとホール系施設の役割を改めて相互に明確化しながら再整備し、個々の事業の目的を明確にし、有効性を高めます
- ・ 仙台市と検討を進めている今後の舞台芸術振興のビジョンづくりを継続し、事業体系全体の構造を強化することから、「劇都仙台」事業の充実を図ります

令和元（2019）年度 事業の概要 [経費／単位：千円]

楽都事業では、3年ごとの開催となる第7回仙台国際音楽コンクールを5月から6月にかけて開催しました。また、秋のイベントとして定着した仙台クラシックフェスティバルなど、地域の音楽文化振興に寄与する事業を継続して実施しました。劇都事業では、演劇やダンスなどの舞台芸術振興にかかるさまざまな事業について再構築を進めるとともに、当年度から3カ年にわたり開催する「仙台舞台芸術フォーラム」のオープニングイベントを実施しました。

(1) 音楽の振興と創造・発信型事業の推進

- ア 仙台クラシックフェスティバル[83,942]（市負担金・協賛金・入場料・自主財源等／No.8）
- イ もりのみやこのふれあいコンサート[3,764]（市補助金／No.9）
- ウ 地下鉄駅コンサート[1,180]（市負担金／No.39）
- エ 仙台国際音楽コンクール運営事業[282,207]（市負担金・入場料等／No.50-56）
- オ 仙台ジュニアオーケストラ運営事業[19,959]（市負担金・受講料等／No.57）*その3にも該当
- カ 市制施行記念コンサート[4,109]（市受託料／No.61）

(2) 舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進

- ア 市民能楽講座[3,818]（市負担金・入場料／No.29）
- イ せんだい演劇工房10-BOX 現代演劇鑑賞事業[5,522]（市補助金・自主財源・入場料等／No.31）
- ウ 能-BOX 施設活性化事業[749]（市補助金／No.34）
- エ 東北復興舞台芸術プロジェクト[4,748]（市負担金・入場料／No.41）*その5にも該当

(3) 劇場・音楽堂の活性化

- ア 文化庁劇場・音楽堂等機能強化推進事業[70,382]（市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料／No.13）

主な楽都仙台事業

No.50-56「第7回仙台国際音楽コンクール」（5月25日～6月30日）

ピアノ部門を5月25日から6月9日に、ヴァイオリン部門を6月15日から6月30日に開催した。39の国と地域から467名の申込があり、動画データ等による予備審査を通過したピアノ部門37名、ヴァイオリン部門36名が参加した。期間中には、予選を通過しなかった出場者による「チャレンジャーズライブ」などの関連事業も実施した。（入場者数：のべ15,062人）

No.8「仙台クラシックフェスティバル2019」（10月4日～6日）

14回目を迎えた今回は、これまでの仙台国際音楽コンクール優勝者や仙台フィルメンバーの個性を活かした公演の他、設立30周年を迎える仙台ジュニアオーケストラOBOG等による記念公演など、仙台の音楽的財産が集結する仙台市市民文化事業団ならではの企画を盛り込み、事業を展開した。（入場者数：のべ37,700人）

No.57「仙台ジュニアオーケストラ」（通年）

仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管した。当年度は、10月の定期演奏会が台風19号の影響により、3月のスプリングコンサートが新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一環として、いずれも開催を断念することになった。（団員数：108人）

主な劇都仙台事業

No.31①「仙台・劇のまちトライアルシアター」（通年）

昨年度プレ・イベントを実施した「劇都・仙台演劇祭（仮）」を再構築し、在仙の舞台芸術分野で活躍する方々と協働し、串田和美トランクシアター「月夜のファウスト」、高校生による演劇公演「又三郎」、子育て世代によるクリエイションを実施した。但し、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月以降の事業を中止した。（入場者数：52人）

No.41「東北復興舞台芸術プロジェクト」（6月～3月）

東日本大震災の記憶と経験をふまえ、過去・現在・未来を橋渡しする舞台芸術作品を創造・発信するとともに、人材の発掘と育成を行うプロジェクトの1年目。当年度は2月15日～16日に「仙台舞台芸術フォーラムオープニングイベント」として、①三角フラスコ「はなして」、②劇団三カ年計画・石川組「徒然だ」、③弘前劇場「壊れる水」の上演とトークセッション、各劇作家のインタビューパネル展示などを開催した。また、仙台防災未来フォーラム展示への出展、3カ年で作成する冊子のコンセプトづくりを行った。

<方針その5> 地域文化資源の活用

多様な分野や担い手との連携と交流を進め、地域や文化資源の新たな魅力発掘に努めるとともに、文化の力を地域の活性化や課題の解決に活かします。

- ① 自然や歴史、伝統など、地域に息づき、育まれてきた文化の土壌を発展させ、その魅力を高める活動を支援します
- ② さまざまな文化活動を介して他者への理解を促進し、多様な価値観と生き方を認め合う地域社会をめざします
- ③ 地域の課題や魅力の発見・発掘に努め、多様な担い手と連携して新たな地域文化を育む取り組みを支援します

2018-2020年の方向性

地域共生社会に対応した文化活動のあり方を模索し、地域や社会課題に対応した文化事業を実践していきます。

- ・施設来場者、文化芸術団体、施設近隣の方々など、さまざまな立場の方々と文化施設や文化事業のあり方について対話を行い、地域における幅広いニーズや意見を把握します。
- ・それらの知見をもとに、自然・環境、子育て、障害のある方の情報アクセス、震災の記憶・記録を残し伝え学ぶ環境などに対応した事業を模索し、各文化施設の特徴や資源を活かして実施していきます。
- ・特に、地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災については、2021年3月には10年目を迎えることから、震災から11年目以降の次世代に向けて、文化活動を通じた震災の経験や記憶の継承について、持続可能なあり方を模索していきます。
- ・仙台市文化プログラムやせんだい・アート・ノード・プロジェクトでは、社会の課題を見据え、地域の資源や人材を生かした文化事業を行います。

令和元（2019）年度 事業の概要 [経費／単位：千円]

仙台市から委託を受けてせんだい3.11メモリアル交流館を運営し、様々な企画展や事業を開催することで施設の魅力を多方面へ発信しました。継続中の「アート・ノード・プロジェクト」、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて実施する「仙台市文化プログラム」では、地域・社会の課題を意識しながら、地域の文化資源を活かした事業を行いました。

(1) 地域共生社会を見据えた事業

ア 利用者や地域との運営懇談会[17]（市指定管理料／No. 99, 109）

(2) 震災・復興に文化を通して向き合う事業

ア せんだい3.11メモリアル交流館運営・各種事業[56, 602]（市受託料／No. 59）

(3) 地域・社会の課題を見据えた文化事業 *その3にも該当

ア 「仙台市文化プログラム」公募・共催事業[5, 557]（市負担金／No. 40）

(4) 新たな地域文化創造にむけた事業 *その2にも該当

ア せんだい・アート・ノード・プロジェクト[31, 162]（市補助金／No. 73）

No. 59「せんだい3.11メモリアル交流館運営」（通年）

年4回の企画展のほか、オリジナルグッズ「海辺のメモリアルソーダ」製作、沿岸部関係の人物紹介・情報発信、市民・団体等との協働、沿岸部ツアーや沿岸部の風土・文化を体験する催し・ワークショップなどを行った。（年間来場者数：49,072人）

No. 40「仙台市文化プログラム事業（通年）」

東京オリンピック・パラリンピックを契機として、地域の文化芸術分野における様々な資源を生かした事業を推進し、新しい成果を生み出すこと、そしてその取り組みや成果がオリンピック・パラリンピック終了後も地域の「レガシー（文化遺産）」として未永く継承されていくことを目的に実施。今年度は「地域資源発掘」「文化芸術による震災復興」「文化芸術による障害者支援」の3テーマにより公募し採択された4事業を、事業実施者と仙台市、事業団の3者共催事業として実施した。（総参加者：のべ2,232名）

No. 73「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」（通年）

「川俣正/仙台インプログレス」「藤浩志/ワケあり雑がみ部」「東北リサーチとアートセンター」等、優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信する事業を行った。（総参加者：16,065人）

3. 経営の強化に向けた取り組み

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

●人材の確保・育成

(1) 職員の専門性と能力の開発

- ア 他都市や他機関を含む研修機会の充実
- イ 専門性の高い人材の確保
- ウ 中長期的な育成の見地に立った異動・交流のしくみの検討

(2) 市民協働の推進

- ア 市民協働のさまざまな場面での推進
- イ ボランティアやサポーターの活動機会の拡大・ネットワーク構築

2018-2020年の方向性

- ・ 仙台市及び他機関の研修機会を積極的に活用します
- ・ 独自に企画する研修の分野や機会を拡大し、内容の充実を図ります
- ・ 職員個々の適性をもとに、キャリアアップやO J Tの観点を重視しながら、育成面でも有効な人事を行い、組織力の維持向上を図ります
- ・ 今後増加する職員の定年退職に備え、中長期の再雇用計画について検討を進めます
- ・ 各事業の実施を通して、外部のさまざまな方々と協働することから、仙台の文化芸術振興に欠かせない担い手の育成を進めます

令和元（2019）年度の取り組み

- (1) 独自企画研修の強化・回数増、次年度以降の研修に向けた調査・研究
- (2) 固有職員再雇用計画の作成
- (3) 助成事業等、市民活動支援事業の充実に向けた調査・リニューアルの検討
- (4) 継続中の市民協働型事業の再編に向けた検討、新たな協働事業の試行

●経営基盤の強化

(1) 運営基盤の強化

- ア 補助金助成金の活用／多様な資金調達手段の開発
- イ 新たな顧客やリピーターの開発／友の会制度の見直し

(2) 組織の強化

- ア 外部団体や企業との連携の促進
- イ 他都市や他機関との連携の促進
- ウ 組織内での情報共有の徹底
- エ チャレンジする組織風土への変革

(3) 安心・安全の確保

- ア リスク予防やBCP策定等による安心安全体制の構築
- イ 運営施設の案内やサイン表示のわかりやすさの向上
- ウ 運営施設の老朽度合等の把握／こまめな修繕

(4) 情報発信の強化

- ア ホームページの見直し
- イ SNS等の活用

2018-2020年の方向性

- ・基本財産及び退職給付引当資産の運用先の拡大を視野に、規程の見直しを含めて検討を進めます
- ・寄付取得の方法やその広報手法の調査・開発を行います
- ・外部資金獲得のための情報収集・共有を、組織内で徹底します
- ・「市民文化事業団友の会」制度の見直しを行い、文化鑑賞会としてのサービス・アップを図ります
- ・ホームページの改善にむけ、調査・検討を継続し、システム改修を行います
- ・施設の指定管理を維持していくため、総合的な経営基盤の強化を施設の運營業務においても生かしていくとともに、次期申請に向けた新しい取り組みを開発します

令和元（2019）年度の取り組み

- (1) 全国の文化振興財団の寄付取得実績や広報の状況の調査
- (2) 文化庁・地域創造等による補助金制度の調査強化・活用拡大
- (3) 市民文化事業団公式ホームページのリニューアルを実施
- (4) 仙台市泉文化創造センターの指定管理者公募に申請し、次期指定管理者として選定

公益財団法人仙台市市民文化事業団 令和元年度事業報告書

1. 定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業（市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進）

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等・備考 (単位:千円)

(1) 芸術文化振興事業

1) ミュージアム等周年記念事業

① 仙台市歴史民俗資料館開館40周年記念事業						
仙台市歴史民俗資料館の開館40周年を記念し実施した。						
1	仙台市歴史民俗資料館40周年記念イベント「ありがとう40年・仙台の伝統芸能」	11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	1,496	696	助成金 696
<p>当館は開館以来39年間にわたり、仙台市内とその周辺地域の人々のくらしと文化にまつわる資料を収集し調査研究を進めてきた。仙台市内にも数多くの伝統芸能が伝えられてきたが、時代の変化の中で失われていったものは少なくない。</p> <p>開館40周年を迎えた令和元年度は、記念事業として旧仙台藩領及び東北地方において伝承されてきた無形の民俗芸能「お神楽」「田植踊」「鹿踊」「剣舞」などの上演を行った。併せて、館内では伝統工芸の職人技の実演を行い、市民の伝統文化への関心を高める行事となった。また、浅草雑芸団による祝福芸の披露やお囃子の中で餅まきを行い、大勢の参加者と開館40周年を祝うことができた。</p>						参加者: 3,296人
② 仙台文学館開館20周年記念事業						
仙台文学館の開館20周年を記念し実施した。						
2	20周年事業「スズキコージトークショー＆ワークショップ」	7/13、7/28	仙台文学館	2,000	0	
<p>「開館20周年企画 第20回こども文学館えほんのひろば スズキコージ 大千世界宇宙民謡画展」(7/13～8/25)に合わせて、詩人のアーサー・ビナードとのトークショーと、子どもに向けたワークショップを開催した。</p> <p>①スズキコージ×アーサー・ビナード絵本トークショー「おお！宇宙はしゃべっている！」(7/13)</p> <p>②ワークショップ「お面をつくってパレード」(7/28)</p>						参加者: ①100人 ②50人
3	20周年事業「連続トークイベント「井上作品と私」	通年	仙台文学館	1,125	0	
<p>開館20周年記念特別展「井上ひさしの劇列車Ⅰ期・Ⅱ期」の開催に合わせて、井上ひさしにゆかりのある演劇人や映画関係者、詩人、そして若手演出家などを招いてトークイベントを開催した。</p> <p>①オープニングイベント「井上演劇と私」(4/27)</p> <p>②井筒和幸トークイベント「映画にしてみたい井上作品」(5/26)</p> <p>③アーサー・ビナード講演会「ひさしと暮せば」(12/21)</p> <p>④渡辺えり講演会「井上ひさしと劇作家協会」(2/2)</p> <p>⑤トークイベント「演出家と語る 井上戯曲のこれから」(3/15・新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)</p>						参加者: ①120人 ②56人 ③80人 ④150人 ⑤中止
③ せんだいメディアテーク開館20周年記念事業準備						
せんだいメディアテークの開館20周年記念事業に向けた準備を行った。						
4	20周年準備	通年	メディアテーク	916	0	
令和3年1月26日に開館20周年を迎えるイベントとして、メディアテーク設計者である建築家の伊東豊雄をゲストに迎え、講演会と鶴田清一館長との対談を開催した。また、オランダ・ドイツ・ポーランドの文化施設等を調査した。						参加者: 講演会813人

2) 経常事業

① 市民文化事業への支援事業						
5	支援・助成・協力事業	年2回募集	—	20,001	20,001	市補助金 20,001
<p>市内で活動する団体・個人が行う文化芸術事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他の各種協力を行った。</p> <p>・支援事業: 年4回発行の文化情報誌『季刊まちりょく』に市民企画事業の告知を掲載し、広報サポートを行った。</p> <p>・助成事業: 仙台市の文化芸術の振興と普及啓発および郷土の歴史継承を推進するため、文化活動の経費の一部を助成した。年2回公募し、助成審査会の答申を受けて助成事業・助成金額を決定した。</p> <p>・協力事業: 特に公益性の高い事業について、事業団友の会への販売斡旋を含む入場券の販売協力、資料貸出、人材の紹介、企画協力や事務局への参画、文化施設での各種協力などを行った。</p>						支援: 167件 助成: 149件 協力: 78件
6	名義後援	通年	—	0	0	
団体・個人が行う文化芸術事業に対し、名義後援を行った。						148件

②公演事業

7	宝塚歌劇星組全国ツアー 仙台公演	5/18～19	仙台銀行ホール イズミティ21	25,474	41,679	入場料 40,919 広告料 350 その他 410
<p>仙台市民はもとより広域からの要望が高い事業として、宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演を実施した。2日間・4ステージで第1部ミュージカル「アルジェの男」、第2部レビュー「ESTRELLAS～星たち～」を上演した。</p>						入場者:5,794人
8	仙台クラシックフェスティバル2019	10/4～6	日立システムズホール仙台他	83,942	76,756	市負担金 23,300 入場料 42,814 協賛金他 10,642
<p>2006年(平成18年)に事業団設立20周年記念事業として、数居の高いクラシック音楽に親しみを持ってもらう、より多くの方々にホールで聴く生演奏の魅力を届けることを目的に立ち上げ、14回目を迎えた今回は、これまでの仙台国際音楽コンクール優勝者や仙台フィルメンバーの個性を活かした公演の他、設立30周年を迎える仙台ジュニアオーケストラOBOG等による記念公演など、仙台の音楽的財産が集結する仙台市市民文化事業団ならではの企画を盛り込み、事業を展開した。</p> <p>・ホール公演は、45分と60分の公演時間、チケットは1,000円～2,000円という手の届きやすい料金とし、地下鉄沿線の日立システムズホール仙台、仙台銀行ホール イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として3日間で89の公演を設け、様々なジャンルのクラシックコンサートを複数楽しんでいただける構成とした。</p> <p>・無料で鑑賞できる地下鉄駅コンサート、街なかコンサートを設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできるフェスティバルとした。</p>						入場者:のべ37,700人
9	もりのみやこのふれあいコンサート	12/6	仙台銀行ホール イズミティ21	3,764	3,764	市補助金 3,764
<p>障害のある方とご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に開催した。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏と構成で、客席とステージが一体となる盛り上がりをもせた。平成26年度から会場を仙台銀行ホール イズミティ21大ホールとしたことで、より多くの車椅子の方の受入れを可能とし、また、仙台市立中学校の特別支援学級の生徒も招待するなど、鑑賞者層をひろげた。事前申込制・無料。仙台市及び仙台フィルと共催。</p>						入場者:1,000人
10	青年文化センター活性化事業 重要無形文化財「組踊」特別鑑賞会	1/26	日立システムズホール仙台	241	0	
<p>日本の伝統文化である能楽・狂言・歌舞伎などの影響を受け創作されたといわれる「組踊」の鑑賞会を実施した。入場無料。入場整理券の配布開始から9日後に全配布終了してしまうほどの人気となり、本番も大好評であった。首里城再建募金への協力も行った。</p>						入場者:438人
11	新春いずみ寄席	1/13	仙台銀行ホール イズミティ21	2,888	2,423	入場料 2,423
<p>新春の看板事業として春風亭小朝師匠を招いて、東京の定席寄席と同規模の小ホールならではの臨場感のある落語寄席を実施した。13時～、16時～の1日2回公演を行った。</p>						入場者:655人
12	共催事業	通年	日立システムズホール仙台他	1,066	0	
<p>放送局等が行う公益性の高い文化事業を共催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小山実稚恵ピアノシリーズ「ベートーヴェン、そして…」第1回(5/12)・第2回(11/10)[仙台・杜の響きコンサート/負担金0] ・第22回仙台青葉能(5/18)[河北新報社/負担金500] ・第56回宮城県芸術祭(9/20～3/8)[宮城県芸術協会ほか/仙台市市民文化事業団賞の授与] ・仙台オペラ協会第44回公演「メリーウイドウ」(9/28・29)[仙台オペラ協会/負担金1,600] ・人形浄瑠璃 文楽(10/17)[東北放送/負担金500] ・カリギュラ(12/13-15)[仙台放送/負担金0] ・東芝グランドコンサート2020 エーテボリ交響楽団(3/10)[仙台放送/負担金0] 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ・TAP DANCE ART PROJECT in Sendai～Tap the FUTURE～ワークショップ(通年)[同実行委員会/負担金0] <p>他</p>						17件

③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施した。

13	<p>劇場・音楽堂等機能強化推進事業 (青年文化センター文化庁文化芸術振興費補助事業)</p>	通年	日立システムズホール仙台	70,382	63,665	<p>市負担金 45,573 入場料等 7,131 文化庁助成金 10,961</p>
<p>仙台市の文化芸術振興の中核施設として、育成・普及・創造の3つの社会的役割を果たす日立システムズホール仙台の発信事業。国からの補助金(文化芸術振興費補助金)を財源とした助成を受け仙台市、仙台フィルハーモニー管弦楽団等と共催。</p> <p><人材養成事業> ①せんだいダンスプロジェクト(6月~2月 練習室、アトリエ等):豊かで柔軟な発想を育み、想像力豊かにコミュニケーション能力を高めていく三つのプログラムを実施、幅広い年齢層とのコミュニケーションを豊かにする場を創出した。 (1)ファミリーダンス/多世代ダンス (2)ダンスを考えてみるトレーニング「仙台カラダをなぞる」(3)ダンスの観た創造プログラム</p> <p><普及啓発事業> ②青少年のためのオーケストラ鑑賞会(7月・10月・11月 コンサートホール):市内小・中学校129校を音楽専用ホールに招いて開催する本格的なオーケストラの演奏会。管弦楽は仙台フィルハーモニー管弦楽団。全14回。 【小学生プログラム】指揮:鈴木織衛 司会:御供和江 管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団 【中学生プログラム】指揮:鈴木織衛 司会:御供和江 管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団</p> <p><公演事業> ③劇都仙台ミュージカルプロデュース公演「おかえり、ケヤキ食堂」(レッスン:4月~12月 練習室等、公演:12/7・8 シアターホール):仙台を中心に活躍する指導者スタッフによる市民参加ミュージカルの制作・上演事業。一年以上のレッスンを経て舞台に立った出演者一人一人が熱演し、音楽・ダンス・演技・舞台全ての面において高い成果を得た。総合監修:茅根利安、脚本・演出:渡部三妙子、音楽監督:只野展也、振付:朝日雅宏、他 ④劇都仙台 演劇プロデュース公演プレ企画(2月 交流ホール):公演事業の総予算縮小に伴い実施せず。 ⑤Co.山田うん 2019年ツアー「話のない物語」仙台公演(ワークショップ:9/3・4、公演:11/7 シアターホール):日本を代表するダンサー・振付家、山田うんによる、プレリュード(前奏曲)をテーマにした旧作及び東北の芸能に取材した新作ダンス作品を二本立てで上演。加えて地元福岡地区の鹿踊・剣舞保存会から協力を得てアウトリーチによりワークショップを行い、仙台市立福岡小学校、仙台市立根白石中学校、常盤木学園高等学校の生徒たちと交流、有意義な時間を共有した。 ⑥子供と大人のためのダンス公演「日本昔ばなしのダンス」(9/27 シアターホール):「学ラン」ダンスカンパニー、コンドルズ主宰の近藤良平と、若手振付家マグナム☆マダム主宰の山口夏絵による、誰もが知っている日本の昔話の振付ダンス作品「かさじぞう」「てんぐのかくれみの」「つるのおんがえし」の3本立てを上演。それぞれ15分から30分程度の途中休憩を挟むなど、子どもたちが集中して鑑賞できる環境づくりに努めた。 ⑦名曲のちから「オーケストラ・スタンダード 全2回」Vol.24/Vol.25(1/29、2/5 コンサートホール):平成23年度からの継続企画。オーケストラ作品の名曲をリーズナブルな入場料で提供するシリーズコンサートを開催。Vol.24では仙台フィルコンサートマスター神谷未穂がソリストとして出演し、プロコフィエフ:ヴァイオリン協奏曲第2番を演奏。Vol.25では作曲家三大B(バッハ/ベートーヴェン/ブラームス)をテーマに、クラシックの古典から初期ロマン派への道程を角田鋼亮の判りやすいトークを交えながら紹介した。 【Vol.24】1/29 指揮:渡邊一正 ヴァイオリン:神谷未穂 管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団 【Vol.25】2/5 指揮:角田鋼亮 ピアノ:菊池洋子 管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団 ⑧おとなとこどものためのクラシック入門「仙台フィルのクリスマスコンサート Vol.2」(12/18 コンサートホール):親子や三世代で楽しめる内容とするためクリスマスに関連した作品を中心になじみのあるプログラムを設定し、平日マチネにオーケストラ・コンサートを実施した。 指揮:松井慶太 管弦楽:仙台フィルハーモニー管弦楽団 ⑨青年文化センター事業評価(通年):PDCAサイクルと外部評価体制を確立し、事業の有効化をはかるため事業の評価委員会を設置・運営した。</p>		<p>◆人材養成事業 ①参加者: (1)57人(ファミリー17人/多世代15人+合同成果発表会25人) (2)15人 (3)10人</p> <p>◆普及啓発事業 ②鑑賞者:10,798人(全14回) 訪問ワークショップ実施回数:8回(校)</p> <p>◆公演事業 ③入場者:1,290人 レッスン:67回 ④実施せず ⑤入場者:137人 ワークショップ参加者:78人 ⑥入場者:313人 ⑦1/29入場者:469人 2/5入場者:397人 ⑧入場者:269人</p>				

14	青年文化センター活性化事業	通年	日立システムズホール仙台	2,019	219	参加料等 17 コピー料収入 202
<p>地域資源等を活用しながら、文化創造・交流拠点としての施設機能の充実と利用促進を図り、より市民に親しまれる施設に向けた事業を行った。</p> <p>①パフォーマンス広場活用プロジェクト(7/27・28):当館の特徴的施設である自由空間を利用しているアーティストにスポットをあてたステージを、⑥「こどもの夢ひろば“ボレロ”」に併せて実施し、同広場の創造拠点機能の発信を図った。</p> <p>②地域連携事業(通年):旭ヶ丘地域のコミュニティ事業である「旭ヶ丘わんぱく森がっこ」をはじめ、旭ヶ丘市民センター、近隣町内会など諸機関との連携協働を継続して推し進めた。当年度は、施設の美化推進事業「フラワー大作戦」(6/1)、旭ヶ丘探検隊「日立システムズホール仙台で働く人に会いに行こう!」(旭ヶ丘市民センターと共催)(9/28)、森がっこ「ファーム収穫祭」(11/16)を実施した。</p> <p>③諸室・フリースペース活用事業(通年):劇場・音楽堂等機能強化推進事業に関連した展示のほか、文化情報にふれる機会創出を目的とした「知の広場づくり」事業として、当事業団の書籍を自由に閲覧できる「サラダ文庫」を館内に設置するなど、施設の利用促進を図るためのモデル事業を実施した。</p> <p>④国際交流(市民参加・体験・交流)事業(通年):市民参加・体験型事業として、慶長遣欧使節の帰仙から400年を機とした「生チョコ講座」(1/25)を実施した。また、講座にあわせ慶長遣欧使節関連展示を開催し、参加者の興味喚起を促した。</p> <p>⑤日立システムズホール仙台パフォーマンスフェスティバル準備:施設利用団体や仙台国際音楽コンクール出場者など施設ゆかりのアーティストや若者に人気のコンテンツ等による全館活用のフェスティバル事業の準備を行った。</p> <p>⑥こどもの夢ひろば“ボレロ”(7/27・28):仙台市出身のピアニスト 小山実穂氏プロデュースによる子ども向けコンサートを中心とした体験型総合イベントを共催した。</p> <p>⑦共通経費・次年度調査事業(通年):次年度事業に向けた調査を実施した。</p> <p>⑧コピーサービス事業(通年):施設利用者用のサービスを継続して実施した。</p>						<p>入場者等:</p> <p>①465人</p> <p>②18人(フラワー) 11人(探検隊) 55人(収穫祭)</p> <p>③-</p> <p>④21人</p> <p>⑥3,004人(全コンテンツのべ入場者数17,000人)</p> <p>⑧は収益事業</p>
15	泉文化創造センター活性化事業	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	2,054	1,249	入場料 860 協賛金 300 販売手数料 89
<p>ホール施設等の利用促進に向けた活性化事業。</p> <p>①市民協働によるロビーイベント(年3回):ホール保守点検日に使用されていないホールロビーを活用し、地域を拠点に活動する団体との協働でコンサートを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0歳からのコンサート(門脇 和泉(ヴァイオリン)、千葉 展子(フルート)、門脇 麻美(ピアノ)) (11/13) ・二人のピアニストによる名曲コンサート(蔡 翰平、石丸 友貴(ピアノ)) (11/14) ・たのしいおやこのファミリーコンサート ハンドベル演奏と劇遊び「うみにぽっかりくらじま」(聖和学園短期大学 ハンドベルクワイア ・保育内容B) (2/19) <p>②ホール見学会(7/30、1日2回公演):普段目にする機会の少ない大ホールのバックステージを中心に、音響・照明等機材の操作体験を行う参加型の見学会「小学生のための舞台ウラ探検ツアー」を実施した。小学生を対象として、親子で楽しみながら舞台に興味を持ってもらえるような内容とした。指定管理者グループ構成団体の鶴東北共立の舞台職員が企画段階から参画し、協働で運営。地元で活動する子どもミュージカル団体が模擬イベントを実施した。</p> <p>③ピアノ弾き込みボランティア運営(6/20・21、11/19・20、3/4・5):大ホールのスタインウェイ社製コンサートグランドピアノを常時良好な状態に保つため、一定の演奏技術を持つ市民ボランティアがピアノ弾き込みを実施した。</p> <p>④市民ギャラリー・エントランスロビーでの展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡部正裕写真展 ボタニカルサウンド2019(9/27～10/6):仙台出身の写真家による写真展。 ・東北生活文化大学によるガラスアート展 エントランスロビー(11/2～11/17):東北生活文化大学生活美術学科によるエントランスロビーのガラス面を活用したアート作品を展示した。 <p>⑤コンサートシリーズ「ズミノオト第1回ブラームスノ雨ノ歌」(2/8):仙台市泉区出身で在任のチェロ奏者吉岡知広氏のコーディネートによるコンサートシリーズの第1回目。作曲家にスポットを当ててクラシック音楽鑑賞の楽しみ方を掘り下げて伝えていく。第1回目はブラームス作品を紹介した。</p> <p>⑥泉中央地区プレイガイド事業(通年):利用者へのサービス向上と来場者への利便を図ると共に、文化イベントの普及促進に寄与するため、当館ホールを会場に実施されるイベントの入場券を受託販売及び、事業団主催の入場券も併せて取り扱った。また、仙台国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバルについては専用端末を用いて対応した。また、入場無料の整理券配布等については当館以外を会場とするイベントを含めて積極的に取り扱いを行った。</p>						<p>入場者等:</p> <p>①11/13 415人 11/14 190人 2/19 150人</p> <p>②49人</p> <p>③のべ11人</p> <p>④200人</p> <p>⑤330人</p> <p>⑥は収益事業</p>
④ミュージアム活性化事業						
ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図った。						
16	猿舞座のさるまわし	6/9	榴岡公園 歴史民俗資料館	25	0	
<p>榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の12回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気伝統芸に親しむことができた。</p>						参加者:803人
17	れきみん秋祭り	10/26、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	2,476	696	助成金 695 刊行物販売 1
<p>歴史民俗資料館と10-BOXが共同で企画運営する「れきみん秋祭り」の14回目。「お神楽」「田植踊」「鹿踊」「剣舞」などの伝統芸能の競演と、仙台で守り継がれてきた伝統工芸の職人さんの手業の披露、併せて紙芝居やコマ回しなどを上演し、ボン菓子の実演、昭和のボンネットバスの展示など大人だけでなく各世代が同時に楽しめるイベントとして開催した。</p>						参加者:5,931人

18	体験教室「親子でつくろう古代米」	5月～11月	富沢遺跡保存館他	472	166	古代米販売 142 参加料 24
<p>富沢遺跡保存館に隣接する水田で古代米の栽培を行った。親子での協働作業を通じて、古代からの生業を体感するとともに、地域の歴史的な絆や親子の絆の深さを知る機会となった。また、近隣の小学校や地域と連携して事業を展開し、富沢遺跡保存館が地域活性化の拠点となることを目指した。当年度は、田植えから収穫まで計5回の活動日とし、歴史民俗資料館との連携も行いながら事業を行った。</p> <p>【実施内容】第1回 田植えなど(5/11)、第2回 土器づくりなど(6/8)、第3回 石包丁・かかしづくりなど(7/27) 第4回 稲刈り(9/21)、第5回 収穫祭(11/3)</p>						参加申込:19組48人
19	冬キラ☆今日の主役は氷河期の森	12/7・8	富沢遺跡保存館	335	20	市指定管理料 20
<p>地底の森ミュージアム野外展示「氷河期の森」の活用方法を開発し、推進するための事業。地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすいかたちで「氷河期の森」の価値の共有や保全への共感を得ることを目的とした。指定管理業務「たのしい地底の森教室」に結び付けて実施し、これまで参加者から好評を頂いた閉館時間後の施設利用を行い、さらに地下展示室でコンサートを行うなど、指定管理業務では実施が困難な内容を自主財源事業として実施した。</p>						参加者:のべ572人
20	ミュージアム・シアター「狩人登場」	通年	富沢遺跡保存館他	1,141	0	
<p>市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団 短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを行った。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指した。</p>						実施回数:24回
21	施設広報開発事業	通年	富沢遺跡保存館	728	0	
<p>写真および動画の撮影・編集にかかわるワークショップを開催した。写真や動画を活用できるソーシャルネットワークサービス(SNS)の増加により、市民が情報の受信者であると同時に発信者となっている。市民目線の写真および動画は、閲覧者にとって具体的な施設利用の提案となり、来館を促すと考えられる。参加者には施設の魅力を見つけ出して作品を制作してもらい、その作品は館のホームページなどで公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真撮影ワークショップ(5/3、8/11) ・動画撮影ワークショップ(1/19、2/2) 						参加者:のべ22名
22	縄文祭復元事業 「縄文まつり復元と創造プロジェクト」	通年	縄文の森広場	1,999	100	助成金 100
<p>縄文人の暮らしの中で行われていたであろう、「まつり」の復元と創造を目指してこれまで調査研究活動を行ってきた。平成29・30年度には、市民と一緒に「草舟づくり体験」を行い、乗船体験した。また、調査研究活動の成果を公開するイベントとして、「縄文人の記憶の宴」を実施した。本イベントは、縄文時代をイメージした演奏・舞・食・火をテーマに、市内の劇団員や市民が縄文人に扮して巨大な火祭り・縄文の音楽・踊りを行ったものである。</p> <p>令和元年度も引き続き「縄文人の記憶の宴」を実施した。</p>						参加者:98人
23	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	743	0	
<p>平成28年度から「ドッキーをつくろう」と題し、山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、お菓子づくり考古学者下島綾美を招いて土器片そっくりのクッキー「ドッキー」づくりを通じて山田上ノ台遺跡および縄文文化について学ぶイベントを近隣の山野山児童館と連携して実施してきた。また、オリジナルメニューの開発として、平成29年度から、3次元計測によるミニチュアの土器型を製作し、縄文土器チョコづくりを実施した。</p> <p>令和元年度は、新たに土偶形クッキー「ドグッキー」づくりを追加し、引き続き楽しみながら縄文文化に触れられるイベントを行った。</p> <p>①ドキ・土器チョコレイト(2/11、3/14<新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止>) ②土器を食べちゃえ！土器片形クッキー「ドッキー」土偶形クッキー「ドグッキー」をつくろう(2/22)</p>						参加者: ①2/11 7組15人 3/14 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ②9組15人
24	仙台文学館まつり	8/25	仙台文学館	156	1	参加料 1
<p>平成21年度に開催して大変好評であった「吉里吉里国まつり」を「文学館まつり」として継続して開催。文学館に一層親しんでもらう企画で、夏休みのこども文学館の時期に合わせ、子どもを視野に入れたステージやワークショップを実施した。秋以降の企画に繋げ、リピーターを増やす工夫も行った。</p>						参加者:1,190人
25	ミュージアムシアター 展示室劇場	冬期	仙台文学館	200	0	
<p>仙台文学館の常設展示で紹介している作家について、より積極的に紹介する試みとして、作家の生涯を短い演劇に仕立てて展示室内で上演する事業。これまでの土井晩翠と島崎藤村に加えて、常設展示室リニューアルを機に紹介することになった北杜夫についての新たな脚本制作を行った。</p>						
26	smtホスピタリティ向上事業	通年	メディアテーク	225	0	
<p>①親子のための居場所づくり支援事業:子育て世代の親子連れや児童・生徒の利用促進に向け、オープンスクエアでの「こどもスクエア」など、館内の様々な空間を魅力的に演出・活用する「場」づくりを行った。</p> <p>②メディア活用による2階映像音響ライブラリー活性化事業: 2階映像音響ライブラリーとシアターの連動を図る活用モデル事業。映画文化の活性化、利用者間の交流を通じ、「our library & theatre (我らがライブラリー&シアター)」という意識をもつ利用者を育むことを目的として通年で実施した。</p> <p>③オープンスクエアでの音楽系事業: オープンスクエアにピアノを設置し、来館者に自由に弾いてもらう。客席は設けず、『往来に突然現れるピアノと音楽』としてオープンスクエア空き日に実施した。</p>						

27	コミュニティ・アーカイブ・ラボラトリー	通年	メディアテーク	0	0	
市民による草の根的なアーカイブ活動を示す「コミュニティ・アーカイブ」という視点をもって、協働事業について、参加する市民あるいは専門家、実践的あるいは研究的視点などさまざまな角度で分析、広く共有していく小冊子(ZINE)を作成する予定であったが、令和2年度の草アーカイブ会議3での議論もふまえて作成することとしたため、予算は執行しなかった。						
28	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	416	856	刊行物販売 856
ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特性や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行う。 ①歴史民俗資料館グッズ:昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、昭和4年および昭和8年仙台商工地図・大正15年仙台地図、仙台北城下絵図の継続販売と、新規復刻地図の制作販売。(支出99千円、収入261千円) ②富沢遺跡保存館グッズ:氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ(氷河期の森の仲間たち・氷河期の森標本シリーズ等)、編布グッズ(コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ)を販売した。ボランティア手づくりグッズとして新たにリースを開発し、販売した。(支出77千円、収入59千円) ③縄文の森広場グッズ:縄文の森広場ボランティアスタッフによる勾玉づくりセット、編布コースター、石器ストラップなどオリジナルグッズの製作販売を行った。(支出51千円、収入84千円) ④仙台文学館グッズ:前年度までに制作し来館の記念などとして人気の高いしおり・クリアフィルなどを継続販売する他、在仙のクリエイター、アーティストに依頼した、敷地内の自然をイメージした「フォレストシリーズ」のグッズも販売し、来館者のニーズに応えた。(支出139千円、収入288千円) ⑤メディアテークグッズ:ミュージアムショップ等と共同開発してきたオリジナルグッズの継続販売を行った。(支出50千円、収入164千円)						
⑤劇都仙台2019事業 都市文化を支える芸術としての演劇の総合性と公益性を背景に、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑤の体系に基づき実施した。 ①良質な公演の機会の拡大 ②表現者の発掘・育成 ③活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ④教育や福祉など他ジャンルとの連携 ⑤情報交流や協働						
29	市民能楽講座	12/1	日立システムズホール仙台	3,818	3,818	市負担金 2,349 入場料 1,469
能の公演を通して市民に伝統芸能の魅力を伝える企画として継続実施している事業。「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。当年度は、宝生流能「通小町」、和泉流狂言「舟渡賀」の公演を開催した。						
30	舞台スタッフ☆ラボ	8/25～9/8	演劇工房10-BOX 宮城野区文化センター	1,514	1,514	市補助金 804 受講料 60 助成金他 650
舞台監督・照明・音響・制作の各分野で、基本的なことを学ぶ基礎コースと、演劇公演でのスタッフワークを実地で体験する発展コースを開催した。また、劇場・舞台関係の仕事に携わる専門家を招いての「オープン講座」を開催し、舞台芸術を取り巻く仕事について多くの人が学ぶ機会を提供した。宮城野区文化センターとの共催により開催。						
31	10-BOX鑑賞型プログラム	通年	演劇工房10-BOX他	5,522	4,347	市補助金 4,251 入場料 96
①仙台・劇のまちトライアルシアター:昨年度プレ・イベントを実施した「劇都・仙台演劇祭(仮)」を再構築し、在仙の舞台芸術分野で活躍する方々と協働し、串田和美トランクシアター「月夜のファウスト」、高校生による演劇公演「又三郎」、子育て世代によるクリエイション を実施した。但し、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月以降の事業を中止した。 ②「SENDAI OROSHIMACHI Art Marché(せんだい卸町アートマルシェ)」:県内外の先駆的な作品・評価の高い若手劇団の演目を一堂に集め、4日間の演劇祭を実行委員会との共催により開催した。台風19号の影響により、23公演中5公演が中止となった。 ③受け入れ公演:鑑賞の機会を提供し、観客層の拡大につなげる。さらに、県外の劇団と在仙の演劇関係者との交流の場を創出し、在仙劇団の活動の幅を広げることを目的として、(1)市民参加型クリエイション「舞台をつくらう」、(2)くによし組「蟹とアルコールとアイドル」「あめおとな」公演、(3)ゲッコーパレード・家を渉る演劇「リンドパークたちの飛行」を各団体との共催により実施した。						
32	まなぶ・からだ-身体表現ワークショップ	11/9～1/19	演劇工房10-BOX他	848	848	市補助金 786 受講料 62
身体表現に着目し、複数のジャンルにわたるワークショップを通して、舞台芸術を幅広く体験し多角的に学ぶ講座。VOL.1「装うかたち」講師:MAIKO(ダンサー・振付家)、VOL.2「狂言から学ぶ演技力」講師:石田幸雄(和泉流狂言師)、VOL.3「ジャワ古典舞踊で巡る表現」講師:Rianto(ダンサー・振付家)、VOL.4「イチからまなぶ戯曲講座-フィールドワークで書く」講師:西史夏(劇作家)の4講座を実施した。						
33	せんだい短編戯曲賞	通年	演劇工房10-BOX他	1,980	1,980	市補助金 1,668 入場料 312
平成25年から毎年実施している「せんだい短編戯曲賞」を、当年度から上演企画と作品の公募を隔年で実施することとした。当年度は、これまで(第6回まで)の大賞作品9作品の大賞受賞作家全員から募った短編作品9本を、仙台を拠点に全国的に活躍する劇団 短距離男道ミサイルが連続上演する企画「SENDAI SHORT STORIES」を実施。6公演を予定していたが、台風19号の影響で4公演の実施となった。また、令和2年度「第7回せんだい短編戯曲賞」の募集を行った(応募数277篇)。						

34	能-BOX 経常事業	通年	能-BOX	749	749	市補助金 652 受講料 97
<p>能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化への親しみと理解を深めるため、①「こどものための能講座」(能楽師:山中辻晶)、②「能のおけいこ体験講座」、③「外国人向け能講座」を実施。また「能の音楽～男女の舞」を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。②③は仙台市能楽振興協会との共催。</p> <p>その他、4月と10月の年2回開催される「卸町ふれあい市」にて、仙台卸商センターとの協働で能-BOXを来場者に紹介する事業「倉庫の中に能舞台、能-BOXへようこそ。」を開催した。(4/14「Atoa. 和太鼓ライブ」、10/19「仙台和楽器男子ライブ」)</p>						<p>受講者: ①35人 ②44人 ③13人</p>
35	共通事務(事業間連携活動等事務)	通年	演劇工房10-BOX他	1,010	442	市補助金 115 刊行物販売 327
<p>劇都仙台事業や教育・福祉など他の専門組織との協働事業等にかかる共通事務。ホームページの更新、せんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売、次年度の事業に向けた視察や調査研究など、事業間連携活動に必要な業務を行った。</p>						
36	演劇-社会アクセス事業	通年	演劇工房10-BOX他	200	0	
<p>音響・照明等の機材貸出や、各団体の舞台芸術活動への協力を通して、舞台芸術による社会貢献の促進を図る活動。さらに、教育現場での演劇の次代の担い手を重点支援するため、小学校での学習発表会のサポートや高等学校演劇協議会による「仙台市高等学校演劇祭」を共催で実施。</p>						
37	音声学ワークショップ	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
<p>磯貝メソッドに基づいた音声学講座。俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法を学ぶ専門的なカリキュラムによる人材育成事業。プロのスキルの養成だけでなく、初心者への指導も行う。事務局を担うIMS磯貝メソッド仙台塾と共催。3月には1年間学んだ成果を披露する発表公演を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。</p>						
38	大衆紙芝居ネットワーク事業	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
<p>当事業団が平成17年度に実施した「大衆紙芝居ワークショップ」の参加者による団体「大衆紙芝居ネットワーク」の自主活動(オリジナル作品の製作、上演、作品展など)に共催し、ロッカーの提供、作品の保管・貸出、機材提供などの協力を行った。</p>						
⑥創造都市推進事業						
<p>仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進した。</p>						
39	地下鉄駅コンサート	9/28・29、 10/5・6	地下鉄駅構内	1,180	1,180	市負担金 1,180
<p>仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演し、仙台市地下鉄の駅構内(仙台駅・旭ヶ丘駅)を会場に、市民が気軽に立ち寄れる無料コンサートを4日間にわたり開催した。</p>						
⑦2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」事業						
40	仙台市文化プログラム事業	通年	—	5,557	5,557	市負担金 5,557
<p>①「仙台市文化プログラム」公募・共催事業:オリンピック・パラリンピックを契機として、地域の文化芸術分野における様々な資源を生かした事業を推進し、新しい成果を生み出すこと、そしてその取り組みや成果がオリンピック・パラリンピック終了後も地域の「レガシー(文化遺産)」として永く継承されていくことを目的に実施。今年度は一般公募により採択された下記の4事業を、実施事業者と仙台市、事業団の3者共催事業として開催した。</p> <p>【実施事業】</p> <p>(1)「SHIRO Atelier & Studio -とものつくる芸術劇場-」 実施事業者:特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン(前年度からの継続事業)</p> <p>(2)「東部沿岸地域に集まる場を整えるプロジェクト」 実施事業者:荒浜のめぐみキッチン</p> <p>(3)「AIR KAIKON 2019」 実施事業者:AIR KAIKON実行委員会</p> <p>(4)「こどもおとなあそびなまプロジェクト!のびのびーば!」 実施事業者:PLAY ART!せんだい ※構成団体)演劇企画集団LondonPANDA・NPO法人アートワークショップすんぶちよ・NPO法人お茶っこケア</p> <p>②beyond2020プログラム認証事務:仙台市が「beyond2020」認証組織となり、事業団はその認証事務の一部を担った。</p>						<p>①参加者:のべ2,232人 (1) 2,086人 (2) 22人 (3) 25人 (4) 99人</p> <p>②申請:45件</p>
⑧東日本大震災10年に向けた「東北復興舞台芸術プロジェクト」事業						
41	東北復興舞台芸術プロジェクト	6月～3月	日立システムズホール仙台、演劇工房10-BOX他	4,748	4,748	市負担金 4,601 入場料 147
<p>東日本大震災の記憶と経験をふまえ、過去・現在・未来を橋渡しする舞台芸術作品を創造・発信するとともに、人材の発掘と育成を行う。当年度は2月15日～16日に「仙台舞台芸術フォーラムオープニングイベント」として、①三角フラスコ「はなして」、②劇団三カ年計画「石川組「徒然だ」、③弘前劇場「壊れる水」の上演とトークセッション、各劇作家のインタビューパネル展示などを開催した。また、仙台防災未来フォーラム展示への出展、3カ年で作成する冊子のコンセプトづくりを行った。</p>						

⑨育成・普及事業						
子どもたちが芸術文化に触れる機会を広く提供するとともに、アーティスト及び指導者の育成を図る。						
42	芸術家派遣事業	5月～2月	各学校・地域	0	0	
文化庁から「仙台市文化芸術による子供の育成事業実行委員会」が業務受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供した。今年度実績として120箇所へ派遣実施。当事業団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を担当。実行委員会の決算額は16,368,386円。						実施会場： 市内学校・保育所等120箇所
43	若手オペラ歌手のためのワークショップ	8/20～24	日立システムズホール仙台他	0	0	
国内屈指のオペラパティン歌手、小森輝彦主宰による団体「仙台オペラアカデミー」と共催し、小森輝彦による声楽レッスンを実施。若手声楽家や音大生などを対象とし、音楽稽古、立ち稽古でスキルアップしたワークショップ受講生が試演会で成果を披露、すぐに活かせる生きた技術を学んだ。						参加者：15名
44	東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト	11/16・17、 2/16	日立システムズホール仙台	1,116	0	
仙台及び東北地域における音楽教育の振興のため、東京藝大、仙台市、仙台市市民文化事業団の共同主催により、事業団設立30周年記念事業として始まった。令和元年度はピアノ、ヴァイオリン、金管楽器の3部門を実施。日本最高レベルの音楽教育に触れることで、地域で音楽に取り組む子どもたちのモチベーション及び技術の向上、地域で音楽教育に取り組む指導者の指導力向上、音楽教育・演奏技術への市民の理解を深める催しとなった。						受講生：52人 入場者：648人
45	文学館で言葉を楽しもう	7/9	各学校・地域	37	0	
小・中学校の児童生徒に、仙台文学館施設への興味、文学への興味関心を惹起し、感性や表現力、知識を深めることに力点を置いたプログラム。バスを手配し平日の授業枠における文学館への来館・利用のハードルを低くすることで、市内小・中学校の文学館利用を促し、かつ利用した児童生徒の保護者層にも来館を促す契機としている。今年度は仙台三桜高校を対象に実施した。ゆかりの文学者土井晩翠や、ベストセラー本についてなど、グループごとにテーマを設定し、文学館の資料を活用しながら、理解や関心を深める内容とした。						参加者：24人
⑩出版事業						
事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与する。						
46	出版物の販売継続事業	通年	—	7	28	刊行物販売 28
<p>①『仙台文学館刊行物販売事業』：『仙台北のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴 生きることは愛すること』『ユキユキドンドン スズキヘキ詩集』など、仙台文学館ゼミナールの成果品や講義録、また仙台文学館選書として出版したものを、継続して販売した。(支出0、収入4)</p> <p>②『仙台戯曲賞シリーズ』販売事業：『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を窓口販売の他、webサイトからの申込みにより継続販売した。販売価格は1,080円(税別)。(支出0、収入1)</p> <p>③『文化芸術の社会再生力』販売事業：事業団設立20周年事業記念連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力」における鼎談と講演録を採録したブックレットを継続販売した。(支出0、収入1)</p> <p>④『RE:プロジェクト記録集』販売事業：平成23年度から27年度まで実施した事業「RE:プロジェクト」の、これまでの成果物(『RE:プロジェクト通信』5年目のRE:プロジェクト通信)に活動の記録や振り返りを加えて1冊にまとめた本を継続販売した。(支出7、収入22)</p>						
⑪広報事業等						
47	広報事業	通年	—	7,098	4,936	市補助金 4,903 広告料 33
文化情報誌『季刊まちりよ』の発行(年4回)を継続して実施し、当財団の活動や各種外部事業情報に加え、仙台における文化領域の動向を広く市民に広報・紹介した。また紙媒体と連動し、速報力のあるホームページを運営(アクセス件数：年50,824件)するほか、報道機関等への情報提供を随時行った。併せて、当年度は発信力の強化を図るため、時代のニーズに即しホームページのリニューアルに着手した。						
48	市民文化事業団友の会運営	通年	—	3,432	1,791	友の会会費 1,791
市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続して実施した。月例通信「市民ぶんかレター」による当事業団事業他の広報、主催及び協力事業への先行サービスの提供等を行った。年会費1,000円。						会員：約1,800人
49	事業団事業全体にかかる共通事務	通年	—	1,764	0	
事業全体の調整、新事業の調査・企画、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務等、事業団全体にかかる共通事務を行った。						

(2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業						
第7回仙台国際音楽コンクールを開催した。						
50	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台	10,887	10,887	市負担金 10,887
コンクール事務局の運営を行った。						
51	委員会運営	通年	仙台市内・東京都内	5,487	5,487	市負担金 5,487
組織委員会、運営委員会、企画推進委員会を開催した。						

52	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台	207,447	207,447	市負担金 166,896 入場料等 40,551
	第7回コンクール・ピアノ部門を5月25日から6月9日に開催。ヴァイオリン部門を6月15日から6月30日に開催した。39の国と地域から467名の申込があり、動画データ等による予備審査を通過したピアノ部門37名、ヴァイオリン部門36名が参加。					入場者: のべ9,765人 (ガラコンサート含む)
53	広報事業	通年	日立システムズホール仙台	41,794	41,794	市負担金 41,744 その他 50
	コンクール開催に係る広報活動及び開催期間の会場装飾等を実施した。また、インターネットで審査の様様をライブ及びアーカイブ配信した。					
54	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台	3,095	3,095	市負担金 3,052 その他 43
	<p>のべ254名の登録者による第7回コンクールに係るボランティア活動の事務局業務を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアリーダーミーティングの開催 ・会場運営サポート:コンクール及び関連事業等の会場運営 ・広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、「Map for The SIMC Contestants」(Web版及び印刷物)発行、ボランティアブログ運営 ・出場者サポート:コンクール期間中のお出場者に対する通訳サポート、コンクール出場者出演コンサートの通訳、交流サロン運営等 ・ホームステイ受入れ:コンクール出場終了後の出場者を対象としたホームステイの受入れ及び受入れ出場者の演奏サポート ・市民が企画するコンクール出場者出演コンサートの運営サポート 					
55	仙台国際音楽コンクール 優勝者副賞コンサート	通年	東京都他	9,246	9,246	市負担金 7,057 出演料等 2,189
	副賞提供期限が令和元年12月末日の第6回コンクール優勝者については、ピアノ部門2回、ヴァイオリン部門1回の国内オーケストラとの共演機会を設けた。また、第7回コンクール最高位受賞者については、ピアノ部門3回、ヴァイオリン部門1回の国内オーケストラとの共演機会を設けるとともに、コンクールでの演奏を収録したCDを制作・販売した。					
56	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年	市内各所	4,251	4,251	市負担金 4,251
	<p>【第7回コンクール開催期間中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予選を通過しなかった出場者10名、公募選出の受講者14名を対象に審査委員によるマスタークラスを開催した(4日間/聴講生788名)。 ・予選を通過しなかった出場者による「チャレンジャーズライブ」(4回/入場者数773名)、学校訪問ミニ・コンサート(8回/入場者数2,952名)、及び「市民が企画するコンサート」(4回/649名)を開催した。 ・ベルギー在住の弓制作家ビエール・ギョームの協力により、ヴァイオリンの弓に関するパネル展示と講演会を開催した(入場者135名)。 					入場者: のべ5,297人

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

57	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	日立システムズホール仙台	19,959	19,959	市負担金 13,457 受講料等 6,502
	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管した。 ・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託した。 ・8月に夏合宿を行った。 ・10月の「定期演奏会」は台風19号の影響により開催を断念した。 ・3月の「設立30周年記念スプリングコンサート」は新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一環として開催を断念した。 					団員数: 108人

(4)演劇系練習施設運営事業

58	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX 能-BOX	25,474	25,474	市補助金 19,724 利用料等 5,750
	「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援していく。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えていく。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行う。					収益事業を含む

(5) 震災メモリアル交流施設運営事業

59	せんだい3.11メモリアル交流館運営	通年	せんだい3.11メモリアル交流館	56,602	56,602	市受託料 56,568 受講料 34
<p>地下鉄東西線荒井駅舎に併設され、平成28年2月に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営(①来館者の対応 ②事業の実施 ③管理業務の一部)を、職員常駐の枠組みとして、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行った。「震災の被害や状況を知り、その経験や教訓を学ぶ場」「東部沿岸地域の記憶を残し、継続的に地域再生への力を形成していく場」「東部沿岸地域への案内所・発着点」としての施設機能を持ち、国外、県内外、周辺地域等々、様々な来館者が訪れ集う場として、親しみやすい運営に努めた。上記のような施設機能を実現するため、下記の事業を実施した。</p> <p>なお、令和2年3月5日～3月31日までは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全館休館した。</p> <p>【企画展(関連企画のツアーやワークショップ等含む)】</p> <p>①3.11現場の事実×心の真実「それでも、下水は止められない。～東日本大震災・南蒲生浄化センターの知られざる闘い」(1/22～7/7)</p> <p>②貞山堀より愛をこめて～震災から8年後のふるさと(7/17～10/28)</p> <p>③継承のしきく-小森はるか+瀬尾夏美-(10/29～12/28)</p> <p>④3.11現場の事実×心の真実「世界がすこやかであるために～東日本大震災と保健活動～」(2/22～6/28)</p> <p>【その他事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルグッズ「海辺のメモリアルソーダ」の製作 ・沿岸部関係の人物紹介・情報発信「海辺のメモリアル帖」の製作・発行(No.1～No.4) ・市民・団体・組織との協働(「メモ館協力事業」「人と未来防災センター巡回パネル展(阪神・淡路大震災から25年)」「メモリアルシアター」) ・沿岸部ツアー(「メモ館発 海辺のメモリアルツアー #1 荒浜小学校編」、企画展関連企画「貞山堀でハゼを釣ろう」「貞山堀で撮り歩きをしよう」) ・沿岸部の風土・文化を体験する催し・ワークショップ等(「メモ館縁日」、「まめげつつあん」、「冬の遊びと手仕事シリーズ」) 						<p>年間入館者: 49,072人</p> <p>企画展来場者 (関連企画参加者): ①10,481名(118名) ※4/1～7/7分 ②10,661名(177名) ③5,292名(115名) ④1,005名</p> <p>協力事業:39件 共催事業:2件</p> <p>メモリアルソーダ販売: 1,507本</p>
60	せんだい3.11メモリアル交流館販売業務	通年	せんだい3.11メモリアル交流館	448	448	市受託料 448
<p>せんだい3.11メモリアル交流館の施設機能及び知名度の向上を目的とする物品の販売を実施し、販売関連業務及び売上管理に係る人員の配置と消耗品の購入等を行った。</p>						

(6) 芸術文化受託事業

(単位:千円)

61	市制施行130周年記念コンサート	7/1	仙台銀行ホール イズミティ21	4,109	4,109	市受託料 4,109
<p>仙台市の市制施行記念式典の一環として、ソリストには130周年の節目にふさわしく、第3回仙台国際音楽コンクールピアノ部門優勝者であり、国内外での活躍も目覚ましい仙台市出身の津田裕也を迎えて、仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会を開催した。</p>						入場者:1,377人
62	せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営	通年	メディアテーク	13,112	13,112	市受託料 13,112
<p>大震災を受け、震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として、整理・保存する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を運営した。具体的には、①写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管した。③収集した資料の一部を、ウェブサイトを通じて配信し、④ライブラリーへの配架や資料の提供協力を行った。</p>						ウェブ閲覧数: 2,359,115回

2. 定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
		事業内容				入場者数等・備考

(単位:千円)

① 仙台文学館普及啓発事業

63	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催時期	仙台文学館	535	535	市補助金 317 販売手数料 218
<p>特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝えていく。</p> <p>①特別展「井上ひさしの劇列車Ⅰ期・Ⅱ期」関連:市内演劇人による井上作品の展示室リーディングや、学芸員による展示解説、「私の好きな井上作品」などの参加型イベントを開催した。</p> <p>②「こども文学館 えほんのひろば スズキコージ大千世界宇宙民謡画展」関連:市内で活動するグループによるお話し会や、手作りワークショップなどを開催した。</p> <p>③特別展「斎藤茂吉-そのひとすぢの道」関連:遺族による講演会や学芸員による展示解説などを実施した。</p>						<p>参加者: ①95人 ②953人 ③275人</p>
64	ことばの祭典—短歌・俳句・川柳への誘い	6/22	仙台文学館	424	424	市補助金 424
<p>短歌、俳句、川柳の3部門による合同吟行会。文学館の敷地内を中心に吟行し、当日発表される題に沿って作られた作品から「ことばの祭典賞」を選んだ。</p>						参加者:120人

65	土井晩翠顕彰事業	通年	—	962	962	市負担金 926 刊行物販売 36
平成29年度末をもって解散した土井晩翠顕彰会の事業を引き継ぎ、詩人・土井晩翠の業績と遺徳を顕彰する事業を行った。土井晩翠の命日に近い10月18日に「荒城の月市民大合唱」を、10月20日は、広く募集した晩翠わかば賞・あおば賞の贈呈式ならびに、記念イベントとして「晩翠わかば賞・あおば賞作品リーディング『ドッキドキのコトバたち』」などを実施した。晩翠草堂の展示品の管理と展示内容の充実に努めた。						参加者： 10/18 170人 10/20 70人
66	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	2,035	2,035	市補助金 85 受講料 1,950
文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座や参加型イベントなどを実施し、文学の振興を図った。 ①小池光短歌講座：館長の歌人・小池光による短歌の鑑賞と実作指導の連続講座を9回開催した。 ②仙台文学館ゼミナール：近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースなどの部門を設け、各講座をそれぞれ3～5回連続で開催した。 ③仙台朗読祭、詩のリーディングイベントなど：館長小池光がゲストを招いて話を伺う、小池光のこぼのセッションや、広く一般市民に参加を募り、思い思いの作品を自由に朗読してもらう仙台朗読祭、地元詩人によるポエトリリーディングなど、文学作品の朗読イベントを開催した。 ④小池光こぼのセッションvol.10「鷺田清一と語るこぼの力」：せんだいメディアテーク館長でもある鷺田清一を迎え、哲学者と歌人、それぞれの立場から「こぼ」の持つ力、不思議さ、可能性を語った。						参加者： ①669人 ②1,976人 ③310人 ④145人
67	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	0	0	
県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を随時行った。また、常設展のリニューアルに伴い小中学生に向けた新たなワークシート内容について検討した。						
68	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行った。						
69	情報誌の発行	通年	—	1,163	1,163	市補助金 1,163
文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続した。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実に努めた。						
70	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナーで、文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図った。「こどもの本の部屋」を会場とした、近隣児童館との連携による乳幼児向け事業も実施した。						
71	文学館友の会の支援	通年	—	0	0	
会の事務局を担当し、文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行などを実施した。						
72	出版物等の販売	通年	—	316	316	市補助金 163 刊行物販売 153
小池光短歌講座の記録集を制作・販売した。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展関連の物品も館内で継続して販売した。						

3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等・備考
(単位:千円)						

①せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業

73	せんだい・アート・ノード・プロジェクト	通年	メディアテーク	31,162	31,162	市補助金 29,662 助成金 1,500
<p>優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信する事業を行った。「川俣正/仙台インプログレス」や「東北リサーチとアートセンター」でのアーティストによるプロジェクト、人材育成、市民啓発のための「TALK」や「アートノード・ミーティング」などの事業とこれらに伴う情報発信やアーカイブを行った。</p> <p>①川俣正/仙台インプログレス:木道を制作し地元のイベントに参加した(7月)。また活動報告展を開催した(1/24～3/25)。 ②藤浩志/ワケあり雑がみ部:活動を行った(6月～7月)。仙台七夕の時期にあわせ成果発表を実施した(8/4～8/8)。 ③東北リサーチとアートセンター ・立ちあがりの技術vol.4展覧会「レコメン堂」と関連イベントを実施した(11/8～2/1)。 ・しらべの細道vol.4「東海林恵史の東北鉱山突入記」を実施した(2/7～3/1)。 ・しらべの細道vol.5「がけつづちの防空壕」を実施した(3/6～29)。 ・運営パートナーによる展覧会や関連イベントを開催した(7月～2月)。 ④TALK(トーク):協働者の企画によるトークを実施し、人材育成と市民啓発の機会とした(8月～2月に9回実施)。 ⑤アートノード・ミーティング:プロジェクトをひらく公開討論会を実施した(5月、7月、8月、12月)。 ⑥ジャーナル:事業を発信するために広報紙を発行した(10月、3月)。</p>						参加者:16,065人 (うち①仙台インプログレス9,844人、 ②雑がみ部3,517人)
74	展覧会事業	通年	メディアテーク	15,800	15,800	市補助金 7,352 入場料 948 助成金 7,500
<p>主題「ナラティブの修復」を象徴する事業として、アーティストと協働し、今日的な社会の課題や哲学的な問いを表現によって投げかける展覧会。廃棄された家具などを「修復」することで新たな形態を生み出す仙台の美術家・青野文昭の個展として、震災から現在までの表現を集めた集大成となる展覧会を行った。</p>						入場者:6,590人 (うち関連企画参加者:358人)
75	スタジオ情報発信/地域文化アーカイブ	通年	メディアテーク	4,176	4,176	市補助金 1,676 助成金 2,500
<p>市民間の交流、対話を促進するための対話の場/機会/メディアを用意した。 <スタジオ情報発信> 「考えるテーブル」など、誰もが参加可能な対話型公開会議などを中心に、市民力を醸成し、市民の主体的な社会参画が文化面から活性化していくことを目指すとともに、さまざまな市民の文化活動と協働する事業を行った。 <地域文化アーカイブ> 市民による自発的な地域文化財のデジタル化により、保存、活用を促す取り組みを実施した。成果物は、メディアテークに保管され、ライブラリーへの配架やウェブサイト等での発信などにより、広く市民に活用される財産とした。また、それらをもとにした小規模な展示を行うことで、仙台市域のさまざまな文化活動へのより広く深い市民の関心を促した。</p>						
76	発信・施設活用推進	通年	メディアテーク	4,193	4,193	市補助金 4,053 入場料 61 刊行物等販売 79
<p>各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促し、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークを展開した。</p> <p>①バリアフリー・デザイン事業:目や耳の不自由な人々の主体的な情報アクセスを促進するための点字翻訳、音声解説、字幕制作等のデータ作成を市民との協働で行った。成果物を活用した上映会等の開催、作成に関わる人材の育成、技術向上に向けた一連の取り組みを行った。 ②館長発信事業:発信力のある鷺田清一館長を軸に、著名なゲストとのトークの開催を通じ、市民のニーズをつかみつつ、メディアテーク全体の新しい姿を示した。併せて、館長の動向を伝える情報発信なども行い、より広い理解へと努めた。 ③地域文化連携・施設活用推進:各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリーなど館全体の機能を活かしたイベントや展示や上映会など多様な活用事例を示した。さらに、市民図書館とのイベント等の各種連携を通じ、より広い関心を集め、交流を促進する機会をつくった。</p>						参加者: ①373人 ②340人 ③18,287人

4. 定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
事業内容						入場者数等・備考 (単位:千円)

(1) 仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

77	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	62,172	62,172	市指定管理料 62,172
歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行った。						
78	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	222	222	市指定管理料 222
「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介した。また、震災関連展示を行った。						
						年間入館者:30,747人

① 特別展・企画展及び関連事業

79	企画展「子どもの世界」	4/27~7/15	歴史民俗資料館	234	234	市指定管理料 234
子どもは「七歳までは神のうち」といわれ、「ヒト」と「カミ」の仲立ちをすくと考えられ、様々な形で祭りなどに参加してきた。本企画展では年中行事や祭りなどに参加する子どもたちや遊びなどを紹介し、子どもの世界について考えた。						
						入館者:9,398人
80	企画展「戦争と庶民の暮らし5」	7/27~11/10	歴史民俗資料館	1,349	1,349	市指定管理料 1,349
仙台地方を中心に戦争と庶民のかかわりについて考えた。軍都仙台の成立、西南戦争、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、満洲事変、日中戦争、第二次世界大戦、戦時下の暮らし、米軍占領期などにおける資料を通して、戦前、戦中、戦後の移り変わりを明らかにした。						
						入館者:11,878人
81	特別展「埴焼と埴人形」	11/23~4/12	歴史民俗資料館	1,322	1,322	市指定管理料 1,322
300年以上の歴史を持つ埴焼と伝統的工芸品として親しまれてきた埴人形について館蔵資料を中心に展示し、生活の道具あるいは愛玩品として人々の暮らしに深くかかわっていた様子を紹介した。また埴焼職人の関善内が残した埴人形の土絵や埴焼の製造工程の絵画資料もあわせて展示し、仙台郊外で作られていた埴焼と埴人形の変遷を明らかにした。						
						入館者:6,476人
82	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	38	38	市指定管理料 38
<p>①資料館サポーター養成講座(7月~3月):「資料館の魅力について~展示・収集・調査研究・教育普及~」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につながっていくことをめざした。</p> <p>②子ども講座(7月、1月、3月):おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催した。</p> <p>③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/27~5/6までの7日間):なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」のボランティア講師による製作実演や、生活用具「石臼ひき、こままわし、フラフープ、ホッピング」などの遊びを体験した。</p> <p>④クイズラリー(夏休み・冬休み):クイズやパズル形式での自主見学学習ができるよう促した。</p> <p>⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8月、10月、2月):展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催した。</p> <p>⑥ホームムービーの日(10/19):家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開した。</p>						
						入館者: ①2人 ②11人(2回中止) ③6,741人 ④111人 ⑤17人 ⑥10人
83	資料館だより等の発行(その他の事業)	通年	歴史民俗資料館	99	99	市指定管理料 99
資料館だよりの制作や、資料館の活動チラシを作成し、学校、町内会、関係各所、入館者への配布を行い資料館を利用した社会科学学習に資した。						
84	歴史民俗資料の収集・保管	通年	歴史民俗資料館	1,220	1,220	市指定管理料 1,220
資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進した。						
85	調査報告書等の発行	通年	歴史民俗資料館	940	940	市指定管理料 940
仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」にまとめ、刊行した。また館蔵資料の公開、活用のため「資料集」を編集・刊行した。						
86	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	市指定管理料 0
学校教育との連携促進を目的として事業を実施した。小学校3年生社会科の学習および総合的な学習の際、年間150校を超える市内外の学校が見学を訪れ、石臼挽きなどの体験を行った。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、8月と11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施した。						
						利用学習数: 151校7,884人 博物館実務実習: 5校13人 職場体験:4校10人

(2) 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

87	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	88,727	88,727	市指定管理料 88,727
	旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理を行った。					年間入館者: 34,122人
88	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	12,807	12,807	市指定管理料 12,807
	地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の野外展示を総合的に行った。					
①特別展・企画展						
89	企画展「仙台の遺跡めぐり 古代びとの道具箱」	4/19～6/16	富沢遺跡保存館	60	60	市指定管理料 60
	近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。春季企画展は、仙台市内の遺跡から出土した資料を中心に、身近な文化財を紹介するシリーズとして開催している。今回は仙台平野の古墳時代終末期～奈良時代の遺跡から見つかった道具を中心に、最近話題となった赤井遺跡(東松島市)、原遺跡(岩沼市)の発掘調査成果なども紹介した。					入館者:9,051人
90	特別企画展「センダイ 遺跡の記憶」	7/19～9/23	富沢遺跡保存館	2,011	2,011	市指定管理料 2,011
	仙台市内の遺跡でみつかった旧石器時代から古代にかけての市指定文化財資料を中心に展示し、東北地方や関東地方の遺跡出土品との類似性や産地などから当時の交流と仙台の地が果たした機能や役割を紹介した。					入館者:7,405人
91	企画展「土器のヒミツ」	10/25～12/15	富沢遺跡保存館	72	72	市指定管理料 72
	仙台市内の遺跡から出土した土器に残る痕跡を中心に、関連資料やパネルの展示を通して市民の理解を深めた。					入館者 5,051人
92	企画展「もりの風景2019」	1/15～3/15	富沢遺跡保存館	25	25	市指定管理料 25
	富沢遺跡保存館で行われた当年度事業と、ボランティア会などの活動成果を紹介するとともに、自主財源事業「施設広報開発事業」で参加者が作成した作品などを展示した。					入館者:3,747人
93	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年	富沢遺跡保存館	1,402	1,402	市指定管理料 1,402
	<p>①地底の森フェスタ2019(10/14):屋外を会場とし自由参加の形態で開催した。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げるなどの体験活動を行った。ボランティア会とともに企画実施。</p> <p>②考古学講座(11/23、1/25):考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介する、一般市民を対象とした講座を行った。[講師:尾関清子(11/23)、原口強(1/25)]</p> <p>③たのしい地底の森教室(通年・全25回):当館スタッフが、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物の説明、石器づくりなどのモノづくり体験を行い、古代人の技術や地底の森ミュージアムの特性を紹介する活動を行った。また、「冬キラ」や「森を育てる」など、これまで自主財源事業として実施し好評を得た事業も行き、施設の魅力を多様な観点から紹介する事業として位置付けた。土・日・祝を中心に毎月1～2回程度実施した。</p> <p>④利用学習事業(通年):小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を実施した。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習。実施後、実践内容はウェブサイトで公開し、次年度の活動に活かしていく。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行った。</p> <p>⑤市民文化財研究員育成(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による10名を対象に、1年間にわたり週1回 当館学芸員が支援する活動日を設けた。成果は活動報告書にまとめた。</p> <p>⑥ボランティア育成(通年):市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行った。</p> <p>⑦地域や大学との連携:地域のイベントである太白区民まつりに参画したり、学生ボランティアとの協働事業を行うなど、地域や大学との連携を強化した。</p> <p>⑧富沢ゼミ:富沢遺跡周辺を中心に、仙台市内の遺跡や文化財などを紹介した。[講師:斎野裕彦(12/13)、渡部弘美(2/7)]</p>					参加者等: ①のべ753人 ②11/23 32人 1/25 67人 ③のべ874名 (全25回のうち2回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止) ④21校1,543人 ⑤5人修了 ⑥登録:68人 (のべ4,235.5時間、1,500人活動) ⑦太白区民まつりのべ189人 富沢市民センターまつりのべ44人 学生ボランティア登録44人(のべ20人活動) ⑧12/13 46人 2/7 57人
94	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	135	135	市指定管理料 135
	富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の職員による調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめた。					
95	ポスター・図録等の印刷・刊行	通年	富沢遺跡保存館	1,254	1,254	市指定管理料 1,254
	4回分の企画展ポスター・チラシを作成した。なお、特別企画展については展示図録を刊行した。					
96	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	市指定管理料 0
	仙台市教育委員会が所蔵している旧石器時代に関する資料等を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用した。					
97	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	373	373	市指定管理料 373
	保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、地下水位の調査を行った。併せて保存処理検討会を2回開催した。					

98	次年度事業準備・その他	通年	富沢遺跡保存館	309	309	市指定管理料 309
令和2年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行った。また開館から23年を経過し、常設展の内容が最新の研究成果を反映していないところが増えてきており、展示内容や方法を検討するために有識者を招き指導・助言をいただく場を設けた。						
②地域との連携事業						
99	運営懇談会	通年	富沢遺跡保存館	16	16	市指定管理料 16
富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るために事業を紹介したり、館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行ったりするための場を設けた。第1回は近隣町内会に参加を依頼し、地域に根ざした館となるための意見をいただいた。第2回は、佐川正敏東北学院大学教授を招き、常設展示のリニューアルや今後の事業展開の方向性などについて助言をいただいた。						

(3) 仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

100	仙台市縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	46,842	46,842	市指定管理料 46,842
縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場の維持管理を行った。						
101	仙台市縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	12,070	12,070	市指定管理料 12,070
施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気を伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行った。						
102	コーナー展示	通年	縄文の森広場	117	117	市指定管理料 117
宮城県内を含む東北地方の縄文時代の遺跡から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介した。 ①「 仙山交流in仙台-下ノ内浦遺跡と出土遺物 」(3/15~6/9) ②「 東北の縄文遺跡① 山形県尾花沢市漆坊遺跡 」(7/13~10/20) ③「 東北の縄文遺跡② 秋田県秋田市上新城中学校遺跡 」(12/1~2/11) ④「 東北の縄文遺跡③ 岩手県山田町浜川目沢田 I 遺跡 」(3/14~6/7)						
103	縄文まつり	5/11、7/15、10/12、2/9	縄文の森広場	1,083	1,083	市指定管理料 1,083
季節ごとに開催する自由参加イベント。その日だけの体験コーナーや音楽演奏なども取り入れて実施した。計4回予定していたが、秋は台風の影響で中止とした。 春まつり(5/11)、夏まつり(7/15)、秋まつり(10/12、中止)、冬まつり(2/9)						
104	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	1,367	1,367	市指定管理料 1,367
① 団体予約 :子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験を実施した。 ② 随時体験 :来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供した。 ③ 体験講座 :「週末体験講座」「夏休み子ども考古学教室」「発掘調査体験教室」など、各種体験教室を実施した。 ④ 特別イベント :春・夏・秋・冬の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等を実施した。						
105	縄文講座	12月~2月	縄文の森広場	119	119	市指定管理料 119
縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。毎回公募80名対象。以下の内容で行った。 ① 縄文最新研究最前線① (12/8)「鳥海山麓に営まれた低湿地遺跡-山形県遊佐町小山崎遺跡-」 講師:渋谷咲智(遊佐町教育委員会) ② 縄文最新研究最前線② (1/19)「柵に囲まれた縄文集落を掘る-秋田市上新城中学校遺跡-」 講師:根岸洋(国際教養大学) ③ 縄文最新研究最前線③ (2/16)「最新技術が解き明かす縄文漆工の技」 講師:片岡太郎(弘前大学)						
106	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	210	210	市指定管理料 210
当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行う。各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明などのための研修事業を行った。						

①学校との連携事業

107	学校教育との連携	通年	縄文の森広場	1	1	市指定管理料 1
学校教育との連携促進を目的として実施する事業。8月には、当館の概要説明や体験活動事業を周知するために、市内小・中学校の教職員を対象とした教職員利用研修会及び機関研修を実施した。10月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施した。5、8、11月には、近隣中学校5校より職場体験の生徒を受け入れた。						
108	利用学習事業	通年	縄文の森広場	2,588	2,588	市指定管理料 2,588
小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に利用する利用学習を実施した。当館利用推進を目的として、授業の実践校に交通費の補助を行い、学校側との綿密な連携のもと、館内外の見学や各種の体験学習を行った。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行っており、令和元年度の応募校は28校であった。						

②地域との連携事業						
109	運営懇談会	通年	縄文の森広場	1	1	市指定管理料 1
縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的とし、また、地域と連携した今後の事業を模索する場として行った。						参加者: 7/26 19人 2/14 16人
110	野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける『じょうもん』」	通年	縄文の森広場 太白山自然観察の森 太白小学校	13	13	市指定管理料 13
野外展示「縄文の森」の利活用の幅をひろげるために、近隣住民・小学校・地域の団体などと連携を図りながら、専門家の指導を受けて植生環境の充実を図る事業として、10月には、太白山自然観察の森と連携し、太白小学校1年生を対象として、生育するクリなどを採取し育てる事業を行った。3月には、発根したクリの植え付け作業を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。						参加者: 10/4 28人 3/5 中止

③調査研究事業						
111	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	234	234	市指定管理料 234
各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組んだ。						
112	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究する。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討した。						
113	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施した。						
114	次年度コーナー展資料調査	通年	縄文の森広場	82	82	市指定管理料 82
令和2年度に予定している、展示の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施した。						
115	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行う。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行う。						

(4) 仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

116	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	184,744	184,744	市指定管理料 184,744
文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行った。						年間入館者:50,438人 収益事業を含む
117	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	5,258	5,258	市指定管理料 5,258
常設展示室をリニューアルし、明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学や、宮城ゆかりの漫画アニメなどのサブカルチャーを紹介した。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行った。						

①特別展・企画展

118	20周年記念特別展「井上ひさしの劇列車」I期・II期	4/27～6/30 12/14～4/5	仙台文学館	6,054	6,054	市指定管理料 6,054
明治から昭和にかけて活躍した作家・文学者－宮沢賢治、樋口一葉、林芙美子、太宰治－を取り上げた井上ひさしの評伝劇は、今でも多くのファンを持つ代表作ばかりである。展示では2期にわたって、それら評伝劇の創作資料や、創作にあたって井上を読み込んだ書籍資料、そのほか主人公となった作家の実像がわかる資料などを紹介した。題材となった人物の実人生や作品から、井上ひさしがどのように評伝劇を作り上げていったのかに光をあてることで、井上評伝劇の魅力が来場者の方々にも、彼ら文学者に対する井上のまなざしを伝えた。						観覧者:3,302人
119	20周年企画「夏休み子ども文学館えほんのひろば スズキコージ大千世界宇宙民謡画展」	7/13～8/25	仙台文学館	1,152	1,152	市指定管理料 1,152
その個性的な絵柄と、ダイナミックな作風で多くのファンを持つ絵本作家・スズキコージの原画展を開催した。平成19年に、小規模な展示を開催して好評を得ており、再度の開催を待望する回答が寄せられていたが、今回は平成29年にアーサー・ピナードと共作の形で刊行され、第23回日本絵本賞を受賞した『ドームがたり』を中心に構成した。また、作家によるトークイベントやワークショップなども開催し、絵本の楽しさとスズキコージの世界の面白さを体験してもらうような企画とした。						観覧者:3,780人
120	特別展「斎藤茂吉－そのひとすぢの道」	9/14～11/24	仙台文学館	3,469	3,469	市指定管理料 3,469
日本の短歌史上にその名を刻む山形県出身の歌人・斎藤茂吉。死後半世紀を経た今日においてもなお、その歌は多くの読者の共感を呼んでいる。茂吉短歌の普遍的な魅力と味わい、そしてその波乱に満ちた生涯を紹介し、歌人として、人間としての茂吉の魅力を取り上げた。山形の斎藤茂吉記念館、東京の世田谷文学館の協力を得て、貴重な肉筆資料も紹介した。						観覧者:2,138人

121	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/10~2/11	仙台文学館	170	170	市指定管理料 170
	文学館あての年賀状を広く一般から募集した。文学館の住人でもある作家宛の年賀状やゆかりの文学者から寄せられた年賀状なども展示した。					
122	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	2,541	2,541	市指定管理料 2,541
	宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行う。収集した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行った。また、必要に応じて資料の修復や複製の制作を行った。					
123	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	639	639	市指定管理料 639
	令和2年春の企画展の準備を進めた。					

5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
		事業内容				入場者数等・備考 (単位;千円)

(1)仙台市青年文化センター管理運営事業

124	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	352,937	352,937	市指定管理料 352,937
	<p>平成29年度から5年間の指定管理を受け、その3年目となる当年度は次のとおり施設運営を行った。</p> <p>(1)利用者が安心・安全に利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化するとともに、火災や震災、外部からの脅威に対してより実践的に対処できる防災体制について、不断の見直しを行いながら取り組んだ。</p> <p>(2)利用者との積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスをを行い利用者の増加を目指した。</p> <p>(3)施設利用や芸術文化に関するタイムリーな情報を広く提供するなど広報を強化した。</p> <p>(4)市民の文化活動の拠点施設及び劇場法にうたう劇場・音楽堂としての役割を担うことを認識し、地域資源を有効に活用するなど工夫しながら各種事業を展開し、より市民に親しまれる施設づくりを進めた。</p> <p>(5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続するなど意見集約を積極的にを行いながら業務改善に努めた。</p> <p>(6)令和2年10月から約1か年に亘って全館閉館して行う大規模改修については、これまで培った管理運営の知識と経験をいかしながら施設設置者とともに漏れのない準備を行った。</p> <p>(7)楽都仙台や劇都仙台的拠点施設として事業の運営サポートを行った。</p>					
						年間利用者: 264,922人 収益事業を含む

(2)仙台市泉文化創造センター管理運営事業

125	仙台市泉文化創造センター管理運営	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	132,950	132,950	市指定管理料 132,950
	<p>「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として平成27年度から5年間の指定管理を受けた期間の5年目として、次のとおり施設運営を行った。</p> <p>(1)市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営を目指した。</p> <p>(2)施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させた。</p> <p>(3)適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて弾力的な取扱いも検討し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行なった。</p> <p>(4)施設の安全な維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制をより整備し、省エネルギー、バリアフリーへの取組みを引き続き推進した。</p> <p>(5)施設を活性化させる事業として、宝塚歌劇仙台公演、泉中央地区プレイガイド事業、市民との協働によるロビーイベント、ホール見学会及びボランティアによるピアノ弾き込み事業、市民ギャラリー等での展示、新春いざみ寄席等を行った。</p>					
						年間利用者: 239,071人 収益事業を含む

(3)せんだいメディアテーク管理運営事業

126	せんだいメディアテーク 管理運営	通年	メディアテーク	582,904	582,904	市指定管理料 582,904
	<p>市民文化のシンボルでもある定禅寺通に面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特性を最大限に生かし、人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、施設・設備の適切な管理運営に努めるとともに、計画的に保全を図った。メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行った。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行ったほか、展示や上映のための施設の提供を行った。事業としては協働事業を引き続き発展させ、市民参加型事業を積極的に進めた。また、博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り次世代の育成に取り組んだ。</p>					
						年間利用者: 320,080人 収益事業を含む
127	せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業	通年	メディアテーク	8,568	8,568	市指定管理料 8,568
	<p>映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供した。また、せんだいメディアテークの事業、および「3がつ11にちをわすれないためにセンター」において集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供した。</p>					
						配架数:419点 smtコレクション:20タイトル